

第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

本條ノ規定スル所ハ左記四個ノ犯罪ナリ

- 第一 現在醫士、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人ノ職ニアル者カ其業務取扱ニ關シテ知リ得タル所ノ他人ノ秘密ヲ漏泄シタル罪
- 第二 現在ニ於テ前記七個ノ職業ニ從事セサルモ以前ニ此等ノ職業ニ從事シタル者カ其業務取扱ニ關シテ知リ得タル他人ノ秘密ヲ漏泄シタル罪
- 第三 現在宗教若クハ祈禱ノ職ニ在ル者其業務上取扱ニ關シテ知リ得タル他人ノ秘密ヲ漏泄シタル罪
- 第四 現在宗教若クハ祈禱ノ職ニアラサルモ曾テ其職務ニ從事シタル者カ其業務取扱ニ關シテ知リ得タル他人ノ秘密ヲ漏泄シタル罪

リ得タル他人ノ秘密ヲ漏泄シタル罪
 舊刑法第三百六十條ニハ神官僧侶其身分職業ニ於テ云々トアリシモ宗教自由ノ原則ヲ憲法ニ明定セシ以來宗教事務ヲ職トスルモノ神官僧侶ニ限ラス耶穌宣教師ノ如キモノアリ神官僧侶トノミ規定スルトキハ狹キニ失シ神官僧侶ト同様ニ秘密ヲ守ラシムヘキ必要アル者ニ秘密ヲ嚴守セシムル能ハサル不都合アルヨリ新刑法ハ本條第二項ヲ創設シテ秘密ヲ守ラシムヘキ者ノ範圍ヲ擴張セリ

第三百二十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
 親告罪ヲ設クル理由ハ第四十二條ニ於テ詳説セリ就テ看ルヘシ

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第三百二十六條 阿片煙ヲ輸入、製造、又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
 本條ハ左記四個ノ犯罪ヲ規定ス之ヲ一ヶ條ニ合併シテ規定スルハ犯罪ノ情況相匹敵シ其刑罰ヲ同一ニスルモ不都合ナキニヨリ編纂上ノ節約主義ニヨリ之ヲ同一ヶ條ニ合併シテ規定シタルモノナリ

(一) 阿片煙ヲ輸入シタル罪(二) 阿片煙ヲ製造シタル罪(三) 阿片煙ヲ販賣シタル罪(四) 販賣スル目的ヲ以テ阿片煙ヲ所持シタル罪

第三百二十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條モ左記四個ノ罪ヲ規定ス之ヲ一個條ニ合併シテ印定シタル理由ハ前條ニ同シ

(一) 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入シタル罪(二) 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ製造シタル罪(三) 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ販賣シタル罪(四) 販賣ノ目的ヲ以テ阿片煙及ヒ阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ所持シタル罪

阿片吸食ヲ嚴禁スル目的ヲ達セントセハ阿片其物ノ輸入製造等ヲ禁止スル必要アルト共ニ其吸食器具ノ輸入製造等ヲモ禁止セサル可ラス唯其吸食ノ目的ヲ達セシムルニ緩急ノ區別アルノミ是レ前場合ヲ前條ニ規定シ後場合ヲ本條ニ規定シ相俟テ阿片禁止ノ目的ヲ貫徹セシメントスル所以ナリ

第三百二十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
本條ハ税關官吏ノ阿片ニ關スル犯罪ヲ規定ス

本條モ亦税關官吏カ阿片ニ關シテ犯ス所ノ左記四個ノ罪ヲ合併シテ規定セルモノナリ

(一) 税關官吏カ自ラ阿片煙ヲ輸入シタル罪(二) 税關官吏カ自ラ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シタル罪(三) 税關官吏カ阿片煙ヲ輸入セントスルモノアルトキ情ヲ知テ不法ニ其輸入ヲ許シタル罪(四) 税關官吏カ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入セントスルモノアルトキ情ヲ知テ不法ニ其輸入ヲ許シタル罪

第三百三十六條及ヒ第三百三十七條ノ外特ニ前記第一及ヒ第二ノ罪ヲ規定スル所以ハ其刑ヲ重クセシカ爲メナリ而シテ其刑ヲ重クスル所以ハ税關官吏カ輸入罪ヲ犯スニ當テハ之ヲ防止シ難キノミナラス其官職上ノ信任ニ背キ其情普通ノ場合ヨリ重キニ由ル

又第三及ヒ第四ノ罪ハ阿片煙及ヒ其吸食器具輸入罪ノ從犯ナリ總則第六十三條ノ規定ニ從ヘハ從犯ハ正犯ノ刑ヨリ減輕セラル然ルニ前述ノ理由ニヨリ特ニ其刑ヲ重クスル必要アルニ因リ特ニ本條ニ於テ其罪ヲ定メ其刑ヲ重クシタルモノナリ

第三百二十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第一項ハ阿片煙ヲ吸食シタル罪ヲ規定シ第二項ハ利益ヲ得ル目的ヲ以テ阿片煙ヲ吸食スル者ニ

房屋ヲ給與シタル罪ヲ規定ス第二項ノ罪ハ其性質阿片煙ヲ吸食スル罪ヲ幫助スルモノナレハ第一項ノ罪ノ從犯ナリ從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ヨリ減輕セラルコト總則第六十三條ノ規定スル所ナリ然ルニ阿片煙ヲ吸食スル者ニ房屋ヲ給與スル者ハ吸食者ヨリ重ク罰スル必要アルニ因リ特ニ本條第二項ノ規定ヲ設ケタルナリ

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ阿片煙ヲ所持シタル罪及ヒ阿片煙吸食器具ヲ所持シタル罪ヲ規定ス阿片煙又ハ阿片煙吸食器具ヲ所持スル者ハ現ニ阿片ヲ吸食セサルモ將來自ラ之ヲ吸食シ又ハ他人ニ吸食セシムル恐アルニヨリ阿片嚴禁ノ法意ヲ貫カントセハ是レ又處罰セサル可ラサル必要アリ唯其刑ハ現ニ阿片煙ヲ吸食シタル者ヨリ其刑ヲ輕クスヘキノミ是レ本條ノ刑カ前條第一項ノ刑ヨリ輕キ所以ナリ

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
未遂罪ヲ處罰スル理由及ヒ未遂罪ヲ處罰スルコトヲ明定スル理由ハ第四十四條ニ於テ詳説セリ

第十五章 飲用水ニ關スル罪

本章ハ舊刑法第二編第五章第二節飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪ヲ修正シタルモノニシテ其修正ノ主ナル點ハ一人一個ノ飲用水ニ關スル外公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スル規定ヲ設ケタルニアリ蓋シ公衆ノ用ニ供スル水道ニ關スル犯罪ハ其害ノ波及スル所廣大ナルニヨリ重刑ヲ以テ處罰スヘキ必要アルニ由ル

第四百十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ人カ飲料ニ供スル用水ヲ汚穢シタル罪ヲ規定スルモノナリ故ニ單ニ農工業用ノ用水ヲ汚穢シタルモノハ勿論家用ト雖モ洗滌用ノ用水ヲ汚穢シタル行爲ハ本條ノ犯罪トナス是レ本條ヲ始メ本章ニ規定スル犯罪ハ總テ人類ノ衛生健康ヲ保護スル目的ヲ以テ設定シタルモノナレハナリ

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下

ノ懲役ニ處ス

本條ヲ設定スル理由ハ前條ト同シク人類ノ衛生保護ヲ唯一ノ目的ト爲スコト勿論ナリト雖モ本條ハ水道等一般公衆ノ需要ニ供スル用水ヲ汚穢シタルモノニシテ其害ノ及フ所前條ノ場合ヨリ

廣シ是レ本條ニ於テ前條ヨリ其刑ヲ重クシタル所以ナリ

第四百四十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

本條規定ノ本旨モ人類衛生ノ保護ニアルト雖モ毒物其他人類ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ飲用水ニ混入シタル行爲ナルニ因リ其害單純ナル飲用水汚穢ヨリ重大ナリ是レ前第四百四十二條ヨリ其刑ヲ重クシ一層本條規定ノ行爲ヲ嚴禁セントスル所以ナリ

第四百四十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ罪ハ多ク飲用者ノ健康ヲ害シ身體ニ傷害ノ結果ヲ生スルコトアリ故ニ其發生セシ所ノ結果ヨリ觀察スレハ初メヨリ身體ヲ傷害スル目的ヲ以テ傷害罪ヲ犯セシモノト異ナルコトナシ是レ本條ニ於テ前三條ノ犯罪ニヨリ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ第二十七章ニ規定スル傷害罪ノ刑ト比較シ重キ刑ヲ以テ處罰スルコトト爲シタル所以ナリ

第四百四十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處

ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第四百四十三條ニ比シ本條ノ刑ヲ重クシタルハ單ニ公衆ノ飲用水ヲ汚穢シタルニ止マラス毒物其

他人類ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シ公衆ノ損害ヲ被ムラシムヘキ危險甚大ナルニ由ル

第四百四十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者

ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
本條ハ飲用水供給ノ妨害ヲ爲ス罪ニシテ前數條ノ如ク飲用水ヲ汚穢若クハ有毒タラシムルモノニアラス隨テ其害モ前數條ノ犯罪ノ如ク甚シカラス故ニ公衆ノ用ニ供スル水道ノ損壞若クハ壅塞ニ限リ之ヲ犯罪トシ一人一己ノ飲料ニ專用スル設備(例ヘハ井)ヲ損壞若クハ壅塞スルモ犯罪トセス

第十六章 通貨偽造ノ罪

本章ハ舊刑法第二篇第四章第一節貨幣ヲ偽造スル罪ヲ修正シタルモノニシテ其修正ノ重要ナル點ヲ擧クレハ左ノ如シ

(一) 舊刑法ハ通貨偽造罪ノ成立ニハ偽造又ハ變造ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ必要トシ

第二編 罪 第十六章 通貨偽造ノ罪

單ニ偽造シタルニ止マル場合ニハ刑ヲ減輕スルコトトナセシカ新刑法ハ通貨偽造罪ハ通貨ノ偽造又ハ變造カ成リタルトキニ成立スヘキモノトシ從テ偽造又ハ變造ノミヲ所罰スルコトトセリ

(二) 舊刑法ハ貨幣ノ種類ヲ金銀貨、紙幣、銅貨トニ分チ罪ノ輕重ヲ爲スト共ニ刑罰ニ輕重ヲ爲セリト雖モ新刑法ハ不必要ナル區別ト爲シ是ヲ廢シ又銀行券ニ關スル規定ハ現今唯兌換銀行券條例アルノミニテ一般ノ銀行券ヲ保護スル能ハサルニ因リ新刑法ハ第五十條以下ニ於テ銀行券ニ關スル規定ヲ創設セリ

第四百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

「偽造」トハ之ヲ製造スル(貨)權利ナキ者カ真物ニ類似スル物ヲ造ルヲ云フ

「變造」トハ真成ノ貨幣ヲ材料トシ其文字、紋章、等ヲ變更シ他ノ貨幣類似ノ物ヲ造ルヲ云フ

「貨幣」トハ諸種ノ財物ノ價格ヲ量ル標準ニシテ而カモ實價ヲ有シ國家カ交換ノ手段ニ使フモノ

ト認メタル物件ナリ

「紙幣」トハ物價ヲ量ル標準ニシテ只國家カ交換ノ手段ニ使フモノト認メタル物件ナルモ實價ヲ有セサルモノナリ

「銀行券」トハ銀行ヨリ發行スル證券ニシテ有價證券ニアラス(第十八章規)貨幣同様ノ效用ヲ爲スモノ例ヘハ兌換銀行券ノ如シ

「行使」トハ通用セシムルコトニシテ學者ハ之ヲ流通ニ置クトモ云フ
本條ヲ分析スルトキハ左記三個ノ犯罪アルコトヲ知ル

- (一) 行使スル目的ヲ以テ通用ノ貨幣ヲ偽造若クハ變造スル罪
 - (二) 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ紙幣ヲ偽造若クハ變造スル罪
 - (三) 行使ノ目的ヲ以テ銀行券ヲ偽造若クハ變造スル罪
- 以上ノ行爲ハ公益ヲ害スル度何レモ相伯仲スルヲ以テ同シク無期懲役若クハ三年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス

左記十五個ノ罪ハ本條第二項ノ測定スル所ニシテ前述セシ偽造若クハ變造トハ異ナルモ之ヲ嚴罰シテ禁止スル必要ハ敢テ貨幣等ノ偽造變造ト輕重ナキヲ以テ前述三個ノ犯罪ト同シク處罰スルコトトナセリ

(1) 偽造貨幣ヲ行使シタル罪(2) 變造貨幣ヲ行使シタル罪(3) 偽造紙幣ヲ行使シタル罪(4) 變造紙幣ヲ行使シタル罪(5) 偽造銀行券ヲ行使シタル罪(6) 變造銀行券ヲ行使シタル罪(7) 行使ノ目的ヲ以テ偽造貨幣ヲ人ニ交付シタル罪(8) 行使ノ目的ヲ以テ變造貨幣ヲ人ニ交付シタル罪(9) 行使ノ目的ヲ以テ偽造紙幣ヲ人ニ交付シタル罪(10) 行使ノ目的ヲ以テ變造紙幣ヲ人ニ交付シタル罪(11) 行使ノ目的ヲ以テ偽造銀行券ヲ人ニ交付シタル罪(12) 行使ノ目的ヲ以テ變造銀行券ヲ人ニ交付シタル罪(13) 日本帝國ノ貨幣ヲ偽造若クハ變造シテ海外ヨリ輸入シタル罪(14) 日本帝國ノ紙幣ヲ偽造若クハ變造シテ海外ヨリ輸入シタル罪(15) 日本帝國ノ銀行券ヲ偽造若クハ變造シテ海外ヨリ輸入シタル罪是レナリ

第四百九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ

銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以

テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

本條ハ前條ト罪ノ種類及ヒ其性質ヲ同ウス詳言スレハ外國ノ貨幣、紙幣、銀行券ヲ偽造變造スル點ニ於テハ前條第一項ト同シク本條第二項ハ前條第二項ト罪ノ種類及ヒ性質ヲ同ウス唯其

異ナル所ハ本條ニ規定スル所ノモノハ皆外國ノ貨幣、紙幣、銀行券ニシテ内國ニ流通スル所ノモノナルコト是ナリ内國ニ流通スル外國ノ貨幣(例ハ金銀)紙幣、銀行券ノ偽造、變造ヲ行使、交付ニ限リ之ヲ處罰スルモノト爲シタルハ日本ニ流通セサル外國貨幣、紙幣、銀行券ヲ偽造、變造シ行使、交付スルモ日本帝國ノ公安程度ヲ害スルコトナキニ之ヲ處罰スル必要ナキニ由ル又前條ヨリ刑罰ヲ輕クシタルハ假令内國ニ流通スル外國貨幣紙幣銀行券ヲ偽造變造行使交付スル爲メ日本帝國ノ公安秩序ヲ紊亂スルコトアルモ内國ノ貨幣、紙幣銀行券ヲ偽造變造行使交付スル場合ノ如ク其害甚シカラサルニ由ル

第五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得

シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

「收得」トハ受取及ヒ收得ノ節略語ニシテ他人ノ任意ニ引渡ストキ之レヲ受取ルト犯人カ詐偽ヲ以テ騙取スルト將タ暴行脅迫ヲ以テ強取スルトヲ問ハス總テ之レヲ包含スルモノニシテ廣義ノ文字ナリ舊刑法ニ於テハ收受ノ文字ヲ用ヒアリシモ稍々不穩當ナル感アルヲ以テ新刑法ハ前述ノ如ク修正セリ

本條ハ自ラ貨幣、紙幣、銀行券ヲ偽造變造セサルモ行使スル目的ヲ以テ他人ノ偽造變造ニ係ル貨幣等ヲ請取リタル罪ヲ規定シタルモノナリ蓋シ此種ノ行爲カ假令自ラ偽造變造セサルモノニハ

偽造變造スル者ノ如ク其害惡甚シカラスト雖モ偽造變造貨幣ヲ社會ニ流布セシメ上ハ國家ノ造幣權ヲ侵害シ下ハ偽造變造ノ貨幣ヲ請取リシモノヲシテ意外ノ損害ヲ被ラシムルモノニシテ其害惡亦看過ス可ラサルモノアリ是レ舊刑法以來此種ノ行爲ヲ處罰スル所以ナリ但社會ニ及ホス害惡及ヒ惡意ノ程度共ニ偽造變造者ノ如クナラサルニヨリ其刑ハ偽造變造者ヨリ輕クセリ

第一百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

未遂罪ヲ罰スル理由及ヒ未遂罪ヲ罰スル明文ヲ特設スル理由ハ第四十四條ニ說明セリ

第一百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者

ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

「名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス」本條ノ刑ハ罰金又ハ科料ニシテ其金額ハ偽造變造ノ貨幣等ノ記載金額三倍以下ニ於テ之ヲ定ムルナリ罰金又ハ科料トセシハ裁判官ノ認定ニヨリ二十圓以上ノ財産刑ヲ相當ト認ムレハ罰金トシ二十圓未満ニテ充分ナリト認ムレハ科料トセシムル爲メナリ

本條ハ二個ノ犯罪ヲ規定ス(第一)貨幣、紙幣、銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコト

ヲ知リテ之ヲ行使シタル罪(第二)貨幣、紙幣、銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ行爲ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル罪是ナリ

第一百五十一條ハ取得當時ヨリ偽造變造貨幣タル事情ヲ知リ之ヲ行使スル目的ヲ以テ取得シタルモノナルモ本條ニ規定スル二個ノ犯罪ハ何レモ取得シタル當時ハ偽造變造貨幣タル事情ヲ知ラス取得シタル後偽造又ハ變造ノ貨幣紙幣銀行券タルコトヲ發見シ自己ノ損害ニ歸スルコトヲ恐レ之ヲ真正ナル貨幣紙幣銀行券トシテ行使シ若クハ行使セシムル目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタルモノニシテ其犯情前記第五十條ノ法令ヨリ輕シ故ニ本條ノ犯罪ハ固ト貧欲ヨリ起ル犯罪ナルニヨリ財産刑ヲ科スルヲ適當ト爲シ罰金又ハ科料ヲ以テ其刑罰トセリ

第五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ貨幣等ノ偽造變造罪ノ豫備行爲ヲ罰スル規定ナリ

本條ハ貨幣紙幣ト銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル爲メニ偽造變造ノ器械又ハ偽造變造ノ原料ヲ準備シタル行爲ヲ犯罪トシ之ヲ處罰スル規定ナリ豫備行爲ハ之ヲ處罰セサルハ原則ナルニ例外トシテ茲ニ貨幣ノ偽造變造罪ノ豫備行爲ヲ處罰スル所以ハ貨幣等ハ國民ノ財産ニ密接至大ノ關係ヲ有スルモノヲ一朝偽造變造スルモノアランカ一般國民ニ損害ヲ被ラシムルコト莫大ナ

ハテ成ルヘク之ヲ未發ニ防止スル爲メ其豫備行爲ヲモ嚴罰スルコトトナシタルナリ

第十七章 文書偽造ノ罪

本章ハ舊刑法第二編第四章第三節官ノ文書ヲ偽造スル罪同第四節私印私書ヲ偽造スル罪ノ一部及ヒ同第五節免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪ヲ合併シ之ヲ修正シタルモノニシテ修正セシ主要ナル點左ノ如シ

- (一) 舊刑法ハ圖畫ノ偽造ヲ處罰スル規定ヲ缺キシモ地圖等必要ナル圖面ノ偽造變造等ハ嚴重ニ之ヲ處罰セサル可ラサルニヨリ新刑法第五百五十五條及ヒ第五百五十六條ニ於テ之ニ關スル規定ヲ創設セリ
- (二) 舊刑法ニハ偽造行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ以テ文書偽造罪ヲ成立セシムルコトトナセシカ新刑法ハ行使ノ有無ヲ問ハス文書偽造罪ノ成立スルコトヲ認メタリ
- (三) 舊刑法ハ公務員カ其職務上虛偽ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ官ノ文書ヲ増減變換シタル場合ヲ以テ等シク官文書ノ偽造變造ト爲セシカ新刑法ハ之ヲ虛偽ノ文書ノ作製又ハ變造罪トセリ
- (四) 舊刑法ニハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ戶籍簿、登記簿、其他ノ公正證書ニ不實ノ記

載ヲ爲サシメタル場合ノ規定ナク唯近來實施セラレタル戶籍法等ニ之ニ關スル一部ノ規定アルノミナルヲ以テ新刑法ハ之ニ關スル規定ヲ創設セリ

第五百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書

其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ

詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル

者亦同シ

「御璽」トハ天皇陛下ノ御印ナリ

「國璽」トハ大日本帝國ノ印ナリ

「御名」トハ天皇陛下ノ御名ナリ

「偽造變造」ノ意義ハ貨幣ノ偽造變造ト同様ナリ

本條ハ左記三個ノ犯罪ヲ規定ス

- (一) 行使スル目的ヲ以テ御璽國璽ヲ押シ若クハ御名ニ署シアル紙面等ヲ使用シ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル罪

(二) 偽造シタル御璽國璽ヲ押シ若クハ御名ヲ偽書シ以テ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル罪(以上第一項ノ罪)

(三) 御璽國璽ヲ押シ又ハ御名ヲ署シタル真正ノ詔書其他ノ文書ヲ變造シタル罪本條ニ規定スル所ノ文書ハ偽造變造罪中其害最モ大ナルニヨリ其刑罰モ亦本章中最モ重クセリ

第一百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ

使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ變更シタル者ハ三年以

下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

「公務所」、「公務員」ハ第七條ノ説明ニ詳カナリ

本條ハ左記十個ノ犯罪ヲ規定セリ

- (一) 行使スル目的ヲ以テ公務所ノ印章ヲ捺捺シ公務所ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪
- (二) 行使スル目的ヲ以テ公務員ノ印章ヲ捺捺シ若クハ署名ヲ使用シ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪
- (三) 偽造シタル公務所ノ印章ヲ使用シテ公務所ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪
- (四) 偽造シタル公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪(以上第一項ノ規定)
- (五) 公務所ノ印章ヲ捺捺シアル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪(以上第二項ノ規定)
- (六) 公務員ノ印章ヲ捺捺シ署名アル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪(以上第二項ノ規定)
- (七) 公務所ノ印章ヲ捺捺セス若クハ公務所ノ偽印ヲ押用セスシテ公務所ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪
- (八) 公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セス若クハ公務員ノ偽印偽署ヲ使用セスシテ公務員ノ作

ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪

(九) 印章ノ押捺ナキ公務所ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪

(十) 印章ノ押捺及ヒ署名ナキ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪(以上第三項ノ規定)

第七乃至第十ノ犯罪ニ對スル刑ハ本條第三項ニ規定スル所ニシテ第一項ニ規定スル所ノ第一乃至第六ノ犯罪ニ對スル刑ヨリ輕シ其之ヲ輕クシタル所以ハ公務所若クハ公務員ノ印章又ハ署名ヲ使用スルコトナキカニヘニ人ヲ誤マラシムルコト微ク從テ偽造若クハ變造ヨリ生スル所ノ害比較的ニ輕少ナルニ由ル

第一百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ

圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無

ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

本條ハ舊刑法第二百五條第一項及ヒ第二百十四條第二項ト同一ノ場合ヲ規定スルモノナリト雖モ其趣旨ハ全然異ナル舊刑法ハ官吏カ其職務上虚偽ノ文書ヲ作ル場合ヲ以テ管掌ニ係ル文書偽造ト爲スト雖モ其文書タルヤ形式ニ於テハ官吏カ職務上作成シタルモノナキヲ以テ假令實質ニ於テ瑕瑾アリト雖モ文書偽造ト云フハ不當ナリ此ニ於テ新刑法ハ本條ノ規定ヲ以テ虚偽ノ文書作成及ヒ不正ニ文書ヲ變造シタル罪ト爲セリ本條ヲ分析スレハ左記四個ノ犯罪トナル

(一) 公務員カ其職務ニ關シ行使スル目的ヲ以テ公務員タル署名若クハ公務員ノ印章ヲ押捺シ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作りタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(二) 公務員カ其職務ニ關シ行使スル目的ヲ以テ公務員ノ署名若クハ捺印アル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(三) 公務員其職務ニ關シ行使スル目的ヲ以テ(公務員タル印章若クハ署名ヲ使用スルコトナリ)虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作りタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

(四) 公務員其職務ニ關シ行使スル目的ヲ以テ公務員ノ署名若クハ捺印ナキ文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正

證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓

以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲

サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

「公正證書」トハ公務員カ公務員トシテノ資格ヲ以テ其職務權限内ニ於テ作ル所ノ公ケノ證書ト

云フ意味ニシテ單ニ公證人ノ作ル公正證書ノミヲ指スモノニアラス
「原本」トハ正本、謄本、抄本ニ對スル言辭ニシテ公務員カ自ら作成シ公務所ニ保存シ置ク所ノ
根本ノ證書ナリ

本條ノ規定ハ舊刑法ノ規定ニ無カリシ爲メ久ク惡漢等ノ害惡ヲ社會ニ流シナカラ容易ニ法網ヲ
免レ來リタルモノニシテ司法實務家ノ多年修正ヲ希望セシ所ナリ

第一項ハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ公務員ヲシテ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實
ノ記載ヲ爲サシメタル罪ヲ規定スルモノニシテ從來多ク現ハレシ例ハ登記官吏ニ對シ先ツ自己
ノ氏名ヲ詐稱シ(假リニ申立)申立者所有ノ不動産ヲ乙者ニ買却シタリトノ虛偽ノ申立ヲ爲シ登記官
吏ヲシテ甲者所有ノ或土地ノ所有權移轉 登記ヲ爲サシメタル如キ是ナリ第二項ハ公務員ニ對
シ虛偽ノ申立(例ヘハ氏名ヲ詐稱シ若クハ或營業ヲ爲ササルニ現ニ營業セリト申立テ)テ免狀鑑札旅行券(外國)ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタ
ル罪ナリ

未遂犯ヲ罰スル理由及ヒ未遂犯ヲ罰スル明文ヲ置ク理由ハ第四十四條ノ說明ニアリ

第五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文
書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ
不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

以上第五十四條ヨリ第五十七條ニ至ル四ヶ條ニ於テ説明セシ犯罪アリシ結果偽造變造ノ文
書、圖畫(第五十四條及ヒ第五十五條ノ犯罪ヨリ生スルモノ)虛偽ノ文書若クハ圖畫(第五十六條ノ犯罪ヨリ生スルモノ)不實ノ記載ヲ爲サシメタ
ル原本、免狀、鑑札、旅行券(第五十七條ノ犯罪ヨリ生スルモノ)ヲ行使シタル者ハ其文書圖畫ヲ偽造若クハ變造シ
タル者、虛偽ノ文書圖畫ヲ作りタル者、不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑罰ニ處ス、例
ヘハ甲カ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル後乙カ其事情ヲ承知
シツツ其免狀ヲ使用シタルトキハ乙ハ甲ト同シク六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處セ
ラル

第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利
義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ變造シタル他
人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書
若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明
ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ私文書ノ偽造變造罪ノ規定ナリ

本條ヲ分析スルトキハ左記五個ノ犯罪アルコトヲ知ル

- (一) 行使スル目的ヲ以テ他人ノ印章(眞)若クハ署名(眞)ヲ使用シテ權利義務若クハ事實證明ニ關スル文書又ハ圖書ヲ偽造シタル罪
 - (二) 偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務若クハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ偽造シタル罪(以上第一項ノ規定)
 - (三) 他人ノ印章ヲ押捺シタル若クハ他人ノ署名シタル所ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ變造シタル罪(第二項ノ規定)
 - (四) 他人ノ印章若クハ署名ヲ使用セスシテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ偽造シタル罪
 - (五) 他人ノ印章ノ押捺ナキ若クハ署名ナキ文書若クハ圖書ヲ偽造シタル罪(以上第三項ノ規定)
- 前記(四)及ヒ(五)ノ罪ニ對シ(一)乃至(三)ノ罪ニ對スル刑ヨリ稍輕キ刑ヲ科スル所以ハ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用スルコトナキ爲メ又ハ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造スルコトナキ爲メ此等ノ偽造

變造文書カ人ヲ誤マルコト少ナク從テ其社會ニ及ホス害モ鮮少ナルニ由ル

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ公務所ニ提出スヘキ所ノ診斷書、檢案書、死亡證書ニ醫師カ虛偽ノ記載ヲ爲シタル罪ノ規定スルモノニシテ此種ノ罪ヲ罰スル所以ハ公務所ハ醫師ノ診斷書、檢案書、死亡證書ニ因リ夫々處分ヲ爲スモノ(例ハ醫師ノ診斷書ニ由リ)ナレハ此等ノ證書ニ虛偽ノ記載アルトキハ先ツ之ヲ受理セシ公務所ヲ誤マラシメ延テ國家ノ公益秩序ヲ紊亂スル結果ヲ發生セシムルコトアレハナ

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖書ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖書ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ノ趣旨ハ第五十四條乃至第五十七條ニ對シテ設ケタル所ノ第五十八條ノ精神ト同一

第十八章 有價證券偽造ノ罪

本章ハ舊刑法ノ官文書偽造罪及ヒ私文書偽造罪中ヨリ有價證券ニ關スル部分ヲ指出シ之ヲ合シテ一章ト爲シ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ本章ノ罪ハ特別ノ性質ヲ有スル流通證券ニ關スルモノニシテ普通ノ文書ト異ナル所アリ且ツ主トシテ直接ニ財産上ノ利益ヲ目的トスルモノナルヲ以テ之ヲ他ノ文書偽造罪ト區別スル必要アリ是レ新刑法カ本章ヲ特設スルニ至リシ所以ナリ

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其
他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處
ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

本條ヲ分析スルトキハ左記五個ノ犯罪アルコトヲ知ル

- (一) 行使スル目的ヲ以テ公債證書ヲ偽造若クハ變造スル罪
- (二) 行使スル目的ヲ以テ官府ノ證券(例ハ出納官莫ノ發
スル支理命令ノ如シ)ヲ偽造若クハ變造スル罪

(三) 行使スル目的ヲ以テ會社ノ株券ヲ偽造若クハ變造スル罪

(四) 前記三種以外ノ有價證券(例ハ公債
證書ノ如シ)ヲ偽造變造スル罪

(五) 前記(一)乃至(四)ニ記載スル證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル罪舊刑法ハ爲替手形ニ虛偽ノ裏書
ヲ爲シタル場合ノミヲ想像スト雖モ狭キニ失スルニハ新刑法ハ廣ク虛偽ノ記入ト修正セリ

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證
券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之レヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル
者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ニハ左記三個ノ犯罪ヲ包含ス

- (一) 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シタル罪
- (二) 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交附シ
タル罪
- (三) 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使ノ目的ヲ以テ海外ヨリ日
本國內ニ輸入シタル罪

未遂罪ヲ罰スル理由及ヒ未遂罪ヲ罰スル明文ヲ置ク理由ハ第四十四條ニ説明セリ

第十九章 印章偽造ノ罪

本章ハ舊刑法第二編第四章中其第二節官印ヲ偽造スル罪及ヒ同第四節私印私書ヲ偽造スル罪ノ規定ヲ合シ之ニ相當ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽、又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽、又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

「不正ニ使用シトハ御璽國璽ヲ鈐シ又ハ御名アル書類ヲ取扱フ職權アル者カ職務以外ニ之ヲ使用シ又ハ前述ノ職權ナキ者カ御璽國璽ヲ盗用シ若クハ御名アル書類ヲ不正ニ使フヲ云フ

本條ハ御璽國璽御名ノ偽造及ヒ其使用ヲ罰スル規定ナリ
本條ハ左記三個ノ犯罪ヲ規定ス

- (一) 行使スル目的ヲ以テ御璽、國璽、御名ヲ偽造シタル罪

是レ第一項ニ規定スル所ニシテ二年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス

- (二) 前述ノ如ク偽造シタル御璽、國璽、御名ヲ使用シタル罪
- (三) 真正ノ御璽、國璽、御名ヲ不正ニ使用シタル罪

前記(三)ノ犯罪ハ第二項ニ規定スル所ニシテ二年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名クハ署名クハ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名クハ署名クハ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名クハ署名クハ使用シタル者亦同シ

本條ハ公務所若クハ公務員ノ印章署名ノ偽造及ヒ其使用ヲ罰スル規定ナリ
本條ハ左記六個ノ犯罪ヲ規定ス

- (一) 行使スル目的ヲ以テ公務所ノ印章ヲ偽造シタル罪
- (二) 行使スル目的ヲ以テ公務員ノ印章若クハ署名クハ署名クハ偽造シタル罪
- (三) 前記(一)ニ云フ所ノ偽造シタル公務所ノ印章ヲ使用シタル罪

- (四) 前記(二)ニ云フ所ノ偽造シタル公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪
 - (五) 公務所ノ真正ナル印章ヲ不正ニ使用シタル罪
 - (六) 公務員ノ真正ナル印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル罪
- 前記(三)乃至(六)ノ犯罪ハ本條第二項ニ規定スル所ニシテ不正ニ使用シタルノ説明ハ前條ノ字解ニ説ク所ト同一ナリ

第百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

本條ハ公務所ノ記號偽造及ヒ其使用ヲ罰スル規定ナリ

「記號」トハ商品ノ品質ヲ證明スル爲メ附着セシメタル所ノ記號又ハ公務署カ伐木拂下ノ標示ノ爲メ付スル所ノ記號ノ如シ

本條ノ規定ヲ分析スレハ左記三個ノ犯罪アルコトヲ知ル

- (一) 行使スル目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル罪

是レ第一項ノ規定スル所ニシテ其刑ハ一月以上三年以下ノ懲役ナリ

- (二) 前述ノ如クニシテ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル罪

- (三) 正當ナル公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シタル罪

以上(二)及ヒ(三)ハ第二項ニ規定スル所ニシテ其刑(一)ノ場合ニ同シ是レ其犯情ニ於テ相伯仲シ殊更刑ヲ輕重スル程ノ差異ナケレハナリ

第百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

本條ハ私印若クハ私人ノ署名ヲ偽造シ又ハ之ヲ使用シタル罪ヲ規定ス

本條ニ規定スル所ハ左記三個ノ犯罪ナリ

- (一) 行使スル目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル罪
- (二) 行使スル目的ヲ以テ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪

(三) 真正ナル他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル罪
前記三個ノ犯罪ニ對スル制裁ハ一月以上三年以下ノ懲役ナリ

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條

第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

未遂罪ヲ罰スル理由及ヒ未遂罪ヲ罰スル明文ヲ置ク理由ハ第四十四條ニ説明セリ

第十九章 偽證ノ罪

本章ハ舊刑法第二編第四章第六節偽證ノ罪ヲ修正シタルモノニシテ其修正セシ主要ナル點ハ左ノ如シ

- (一) 舊刑法ハ刑事ニ關スル證人ト民事、商事、行政裁判ニ關スル證人トニ區別シタリト雖モ是レ畢竟刑ヲ細別シタル結果ニ過キサレハ新刑法ハ全然此等ノ區別ヲ廢シタリ
- (二) 又舊刑法ハ刑事ニ關スル偽證ヲ曲庇ト陷害トニ區別シ更ニ陷害ノ場合ノ刑ヲ數種ニ區別シタリト雖モ爲ニ却テ適用上ノ不便ヲ來シタルニヨリ新刑法ニ於テハ此等ノ刑ヲ區別スヘキ情狀ハ之ヲ裁判所ノ認定ニ一任シテ適宜ノ刑ヲ科セシメンコトヲ期シタリ

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ偽證罪ノ規定ナリ

「法律ニ依リ宣誓シタル」トハ法律ノ規定ニ基キ宣誓シタルト云フ意味ニシテ例ヘハ證人鑑定人ノ宣誓ニ付テハ民事訴訟法第三百七條及ヒ刑事訴訟法第二百二十二條ニ基キ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ノ誓ヲ云フ

「虛偽ノ陳述」トハ不實ノ陳述ト云フ意味ニシテ全然虛無ノ事實ヲ陳述シタル場合ハ勿論眞正ナル事實ノ一部ヲ黙秘シテ陳述セス若クハ眞正ナル事實ニ不實ノ事實ヲ附加シテ陳述シタル場合等ヲ總テ包含スル廣キ意義ノ字句ナリ

偽證ハ裁判ヲ誤マラシムル恐レアルモノニシテ證人ノ陳述鑑定人ノ鑑定等ハ裁判官ノ心證ヲ成立セシムル資料トナルモノナルニ誠實ナルコトヲ必要トス故ニ法律ハ宣誓ナル制度ヲ設テ裁判ニ影響ヲ與フヘキ陳述ヲ爲サシムルニ當テハ何事モ黙秘セス又何事モ附加セス良心ニ誓ヒ眞實ナル陳述ヲ爲スヘキ旨ノ誓ヲ爲サシメ若シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪トシテ本條ノ刑ヲ科スヘキコトトセリ

第七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲

戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ刑ノ減免ヲ以テ偽證者ノ自白ヲ促シタル規定ナリ

「懲戒處分前」トハ行政官吏カ偽證ヲ爲シ爲ニ官吏服務規律ニ觸ルル爲メ懲戒處分ヲ受クヘキ場合ニ懲戒處分開始前自白シタルトキト云フ意味ナリ

偽造罪成立シ犯人偽證ノ目的ヲ達スルトキハ裁判ヲ誤マラシメ刑事ニ於テハ無辜ヲ刑シ有罪者法網ヲ逃ルル憂アリ民事ニ於テハ國民ノ權利關係ヲ紊亂セシムルノ恐アリ故ニ成ルヘク裁判確定前又ハ懲戒處分前ニ偽證ノ事實ヲ明白ナラシメ偽證ノ害ヲ未發ニ防止セサル可ラス是レ本條ニ於テ刑ノ減輕若クハ全免ヲ以テ偽證者ニ自白ヲ促シタル所以ナリ

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通

譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

本條ハ前二條ニ於テ證人ノ偽證罪ニ關シ説明セシ規定ヲ鑑定人カ偽リノ鑑定ヲ爲シタル場合及ヒ通事カ偽リノ通譯ヲ爲シタル場合ニ適用スルコトヲ規定シタルモノニシテ詳言セハ第六十九條ノ證人ト云フ文字ニ代フルニ鑑定人又ハ通事ト云フ文字ヲ以テシ第七十條ノ證言ト云フ文字ニ代フルニ鑑定又ハ通譯ト云フ文字ヲ以テスルトキハ本條規定ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ例ヘハ第六十九條ヲ鑑定人ニ適用スルトキハ法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人虚偽ノ鑑定ヲ

爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處スト讀ムヘキカ如シ

第二十一章 誣告ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第一章第十二節中誣告ノ罪ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ舊刑法ハ行政上ノ懲戒處分ヲ受ケシムル爲メノ誣告ニ關スル規定ヲ缺キシモ新刑法ハ其必要ヲ認メテ之ヲ補修シタリ

第七十二條 人ナシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚

偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

「刑事又ハ懲戒處分」トハ刑事處分又ハ懲戒處分ト云フ意味ニシテ刑法ニ依ル刑、文官懲戒法ニ依ル處分及ヒ裁判ヲ云フナリ懲戒處分ハ普通官吏ニ科セラレ懲戒裁判ハ終身官ニ行ハルルモノナリ

本條ハ誣告罪ノ定義ヲ下シタルモノナリ

無辜ノ國民ヲシテ犯罪人タラシメ刑罰ヲ受ケシムル目的ヲ以テ犯罪捜査ノ職權アル官廳ニ(ハ警務署)ニ虚偽ノ申告ヲ爲シタル行爲又ハ服務紀律其他ノ官吏法ニ違反セサル官吏ヲ官吏法ノ違反者ナリトシ之ニ懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ其所屬長官ニ偽リノ申告ヲ爲シタル行爲ヲ

誣告ト云フ誣告ヲ犯罪トシ之ヲ嚴禁スル所以ハ誣告ハ裁判官ヲ誤マラシメ無罪ノ人ヲ犯罪人タラシメ不正ノ行爲ナキ官吏ニ懲戒處分ヲ受ケシムル恐アルニ因ル故ニ或場合ニ於テハ殆ント偽證罪ト本罪トノ間ニ差異ナキニ至ルコトアルモ二罪ノ區別ヲ爲スヘキ點ハ偽證ハ裁判官ノ訊問ヲ受ケテ虛偽ノ申立ヲ爲スモ誣告ハ自ら進シテ犯罪捜査ノ權アル官廳ニ虛偽ノ陳述ヲ爲スニアリ

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

誣告罪ニ對スル本條ノ規定ハ偽證罪ニ對スル第七十條ノ規定ト其性質ヲ同ウスルニ依リ全條ノ說明ヲ參照スレハ本條ノ規定ハ自ら明白ナルヲ以テ茲ニ其說明ヲ略ス

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第一章第十一節猥褻姦淫重婚ノ罪及ヒ第二編第六章中ノ第二百五十八條及ヒ第二百五十九條ヲ合併シ之ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノナリ

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

本條以下三個條ハ舊刑法以來存在スル所ノ猥褻罪ノ規定ニシテ其種類三種アリ

「公然」トハ人ノ知ルト否トヲ問ハス何人ニモ見聞セラルヘキ狀態ニアルヲ云フ

「猥褻」トハ色情ヲ喚起シ若クハ満足セシムル爲メ又ハ已ニ喚起シタル色情ヲ外部ニ表ハス目的ヲ以テ爲ス所ノ行爲ニシテ淫事ニ關シ風儀上ノ感情ヲ傷害スルコト著シキモノヲ云フナリ

本條ハ第一種ノ猥褻罪ニシテ公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ十錢以上二十圓以下ノ科料ニ處セラルヘキ旨ヲ規定ス

第七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

本條ハ第二種ノ猥褻罪ニシテ五百圓以下ノ罰金又ハ十錢以上二十圓以下ノ科料ヲ制裁トス而シテ本條ヲ分析スレハ左記四個ノ犯罪トナル

- (一) 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布シタル罪、是レ公然販賣スル外廣ク公衆ニ頒ツコトヲ禁スル爲メニ設クル規定ナリ

(二) 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ販賣シタル罪

(三) 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ公然陳列シタル罪

(四) 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ販賣スル目的ヲ以テ所持シタル罪

是現ニ販賣シタルモノノ外特ニ販賣セントシタルモノヲモ所謂スル爲メ設ケタル所ノ規定ナリ
第七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲
ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女
ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

「暴行脅迫」ノ説明ハ第九十五條ニ於テ詳述セリ
本條ハ第三種ノ猥褻罪ノ規定ナリ

第七十四條ニ規定スル猥褻罪ハ罪人カ自ラ公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪ナルモ本條ハ他人ニ
對シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルモノナレハ單ニ猥褻ナル行爲ノ爲メ善良ナル風俗ヲ害スル外被害
者ノ品性若クハ名譽ヲ害スル恐アルニ依リ本條ニ於テハ第七十四條ヨリ其刑罰ヲ重クセリ

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ
強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦
淫シタル者亦同シ

本條ハ左記二個ノ行爲ヲ強姦罪トシ其刑罰ヲ二年以上十五年以下ノ懲役トス

- (一) 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル行爲

- (二) 十三歳ニ滿サル婦女ヲ姦淫シタル行爲

單純ニ十三歳未滿ノ婦女ヲ姦淫シタル者ヲモ強姦罪ト爲スハ此年齡ニ於ケル婦女ハ其體力ノ微
弱ニシテ普通男子ノ威壓ヲ受ケ易ク之ヲ姦淫スルニ際シ別ニ暴行脅迫ヲ加ヘサルモ成年ノ女子
カ暴行脅迫ヲ受ケテ姦淫セラレシト其情態ヲ同ウス是レ十三歳未滿ノ婦女ヲ姦淫セハ強姦罪ヲ
成立セシムル所以ナリ若シ暴行脅迫ヲ加ヘテ十三歳未滿ノ婦女ヲ強姦セハ是レ又罪情重キ強姦
罪ニシテ二年以上十五年以下ノ範圍内ニ於テ最モ重ク處罰スヘキヤ勿論ナリ

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ
喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタ
ル者ハ前二條ノ例ニ同シ

「人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ」トハ人カ疾病等ニヨリ精神ヲ喪ヒ白痴ノ情態ニアリ若ク
ハ負傷等ニヨリ身體自由ナラス如何ナル害ヲ受クルモ之ヲ排斥スル力ナキ有様ニアルトキ此等
ノ情態ヲ利用シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ト云フ意味ナリ

「人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ」トハ犯人カ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫
スル目的ヲ以テ人ニ劇藥若クハ毒酒ヲ飲マシムル等ノ手段ニ依リ精神ヲ喪ハシメ若クハ人ヲ捕
縛スル等ノ方法ニ依リ抵抗スルコト能ハサル情態ニ至ラシメタルノ意ナリ本條ハ人ノ心神喪失

若クハ抗拒不能ニ乘シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ若クハ姦淫シタル者ハ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シ(第六條前段)若クハ姦淫シタル者(第七條前段)ト同シク處罰シ又人ノ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シ(第七條前段)若クハ暴行脅迫ヲ爲シテ姦淫シタル者(第七條前段)ト同シク處罰スル旨ヲ規定ス蓋シ人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ暴行脅迫ヲ爲シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタルトハ惡意ノ程度モ相同シク被害ノ程度モ異ナルコトナケレハナリ

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

未遂罪ヲ罰スル理由及ヒ未遂罪ヲ罰スル明文ヲ特設スル理由ハ第四十四條ニ說明セリ

第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

親告罪ヲ設クル理由ハ第四十二條ニ於テ說明セリ

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ猥褻罪又ハ姦淫罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ノ制裁ヲ規定セルモノナリ

第七十六條乃至第七十九條ノ刑ハ何レモ猥褻若クハ姦淫ヲ爲シタルノミヲ豫想シテ規定セリ故ニ若シ猥褻若クハ姦淫ヲ爲シタル結果被害者ニ傷害ヲ受ケシメ若クハ被害者ヲ死亡セシメタルトキハ更ニ其刑ヲ重クセサル可ラス是レ本條ノ規定アルニ至レル所以ナリ

第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ品行正シキ良家ノ婦女ヲ勸メテ姦淫セシメ以テ利益ヲ得ル者ヲ處罰スル爲メニ設ケタル規定ナリ故ニ利益ヲ得ル目的ナク單ニ男子ノ依頼ヲ受ケ良家ノ婦女ヲ勸メテ姦淫セシムルモ本罪ノ犯人トナラス又利益ヲ得ル目的ヲ以テ婦女ヲ誘ヒ男子ト姦淫セシメタリトスルモ其婦女本來淫賣婦ナリセハ本罪ノ成立セサルコト勿論ナリ結局本罪ハ良家ノ婦女ヲ墮落セシメテ利ヲ得ントスル者ヲ處罰スル爲メニ設ケラレシ規定ナリ

第八十三條 有夫ノ婦、姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但シ本夫姦通ヲ縱容スルトキハ告訴ノ效ナシ

本條ハ有名ナル有婦姦ノ規定ナリ

日本ニ於ケル姦通罪ハ夫ヲ有スル婦女カ他ノ男子ト通シタルトキ成立スルモノニシテ其相手方タル男子ノ妻ヲ有スル者ナルト否トヲ問ハサルコト舊刑法以來ノ精神ナリ

何故妻ヲ有スル夫カ處女ト通シタルトキハ之ヲ姦通罪トシテ處罰セサルヤ一夫一婦ノ道德觀念ヲ以テ云ヘハ此場合ヲ處罰セサル可ラサルコト勿論ナリ故ニ佛國ヲ始メ歐大陸ノ刑法ニハ此場合ヲ姦通罪トシテ處罰セリ我國ニ於テ新律綱領以來此場合ヲ姦通罪トセサルハ古來ノ慣例ニ基クト云フノ外ナシ

本條ヲ親告罪ト爲シタルハ夫カ妻ヲ罰スルコトヲ欲セサルニ拘ハラヌ檢事カ起訴シテ犯罪必罰ノ原則ヲ貫徹セントスルトキハ反テ夫ノ名譽ヲ毀損シ一家ノ圓滿ヲ缺クニ至ルヲ以テ夫ノ告訴ナケレハ有夫姦罪ノ裁判ヲ爲ササルコトトセリ又夫カ豫メ妻ニ姦通スルコトヲ許シタルトキハ夫カ妻及ヒ姦夫ヲ處罰セントシ告訴スルモ其告訴ハ何等ノ效ナク結局處罰スルコト能ハサル結果トナル

第八十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲

役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

本條ハ重婚罪ノ規定ナリ

「配偶者アル者」トハ結婚者ト云フ意味ニシテ結婚者トハ婚姻ノ成立シタル者ト云フコトナリ而シテ現行民法ニ依レハ婚姻成立ノ形式的條件トシテ「婚姻ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ルコトヲ要ス」(民法第七百七十五條)故ニ此形式ノ履行ナキ者ハ假令同居同棲シ夫婦同様ノ關係アルモ結婚者ニアラス從テ其一方カ第三者ト結婚スルモ本條ノ犯罪人トナルコトナシ

配偶者アル者カ重テ婚姻スルト云フモ前述セシ如ク配偶者アル者カ民法第七百七十五條ニ規定スル形式ヲ充實スルヲ云フニ外ナラサレハ同衾ノ有無ハ婚姻ノ成立ニ何等ノ關係ナシ故ニ婚姻スルモ必シモ前條ニ規定セシ姦通罪ノ成立スルモノニアラス是レ姦通罪ノ外特ニ本條ヲ設ケテ一夫一婦ノ大厚則ヲ貫徹セシメ同時ニ本邦固有ノ家族關係ヲ紊亂スルコトナカラシメントスル所以ナリ

相婚シタル者ヲ重婚者ト等シク處罰スルハ前條ノ相姦者ヲ處罰スル趣旨ト同シク此等ノ者ハ一部ノ學者カ謂フ所ノ必要の共犯者ニシテ重婚ノ相手方若クハ姦通ノ相手方トナルモノナクシテ姦通罪モ重婚罪モ成立スルコトナキナリ故ニ若シ姦通若クハ重婚ヲ嚴禁セント欲セハ姦通者若クハ重婚者ヲ處罰スルト共ニ相姦者若クハ相婚者ヲ處罰スル必要アルナリ

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

本章ハ舊刑法第二編第六章中賭博及ヒ當籤ニ關スル規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其修正シタル主要ナル點ハ常習トシテ賭博ヲ爲ス者ト否ラサル者トニ分チ常習トシテ爲ササル者ニ付テハ單ニ罰金ヲ科スルコトト爲シ(常習トシテ賭博ヲ爲ス者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス)タリ是レ常習ト爲ササル賭博事ハ其犯情輕微ニシテ特ニ重刑ヲ科ス必要ナキニ由ル

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

「偶然輸贏」トハ意外ノ勝敗ト云フ意味ナリ
「博戲賭事」偶然ノ出來事ニ因リ財産上ノ利益ノ得喪ヲ決スル契約ニ基ク行爲ナルコトハ博戲ト賭事ニ共通スル觀念ナリト雖モ博戲ハ當事者カ利益ノ取得ヲ唯一ノ目的トシ賭事ハ所謂かけこトニシテ自己ノ主張ヲ固持スル目的ニ出ツ例ヘハ競馬ノ勝敗ヲ賭スルカ如シ
本條ハ前述セシ第一種ノ賭博罪ヲ規定スルモノニシテ意外ノ勝敗ニヨリ財物ノ取得若クハ喪失スル爲メ賭戲若クハ賭ケ事ヲ嚴禁スル規定ナリ舊刑法ハ現ニ博奕ヲ爲シ云々ト規定スルモ發覺ノ當時現ニ博奕ヲ爲スニ非ラサレハ罪トナラストノ解釋行ハレ不便ヲ感シタルヲ以テ本條ハ此等ノ文字ヲ刪除セリ

假令偶然ノ勝敗ニ因リ財物ヲ賭シテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタルモ其財物カ一時ノ娛樂ノ用ニ供スルモノナレハ本條ニ依リテ之ヲ處罰セズ是レ一時ノ娛樂ニ供スル物品ヲ以テ賭ケ事又ハ博戲ヲ爲スハ普通ノ人情ニシテ之ヲ咎ムルハ人ニ難キヲ責ムルモノナルノミチラス且ツ此ノ如キ賭博ハ國民ノ僥倖心ヲ澎張セシメ産ヲ破リ定業ヲ忘ラシムル等ノ憂ナケレハ敢テ之ヲ處罰スル必要ナキニヨル舊刑法ハ此場合ニ相當スル規定ニ於テ飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニアラスト規定シアリタル爲メ遂ニハ飲食物ヲ以テ金錢ニ代用スルモノアルニ至リタルヲ以テ新刑法ハ本條但書ノ如ク改正セリ

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

「常習」トハ賭博ヲ常業トシテ生活スル者ト云フ意味ナリ
本條第一項ハ第二種ノ賭博罪ヲ規定スルモノニシテ常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル行爲ヲ所罰スルモノナリ

第二項ハ第三種ノ賭博罪ヲ規定スルモノニシテ此種ノ犯罪ハ自ラ賭博ヲ爲サス所謂賭場ヲ張リ博徒ヲシテ賭博ヲ爲サシメ以テ場錢ヲ取り或ハ親分トナリテ博徒ヲ招結シ賭博ヲ爲サシメ以テ

利益ヲ圖ルモノナリ故ニ社會ニ流布スル害ハ親知相集テ賭博ヲ爲ス場合ヨリ重大ナリ是レ本條ハ第一種及ヒ第二種ノ賭博罪ヨリ其刑ヲ重クシ以テ之ヲ嚴禁スル所以ナリ

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ

罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金

ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

「富籤」トハ通俗ニとみくがト云フモノニシテ廣ク札ヲ賣リ抽籤方法ニ依テ行フ賭博ノ一種ナリ「授受」トハ受ク渡シト云フ意味ニシテ頗ル廣義ナリ故ニ賣買タルト贈與タルト問ハス富籤ヲ受ケ渡シセシ場合ヲ總テ包含ス

本條ハ所謂富籤ニ關スル罪ニシテ第一項ハ富籤ノ興業元ト爲リ富籤ヲ發賣シタル罪ヲ規定シ第二項ハ興業元ノ爲メ富籤發賣ノ取次若クハ周旋ヲ爲シタル罪ヲ規定シ第三項ニ於テハ買主タルト讓受主タルトヲ問ハス富籤ノ受ケ渡シヲ爲シタル罪ヲ規定ス本項ハ明治十五年第二十五號布告第二條ヲ修正シタル規定ニシテ同條ハ購買者及ヒ讓受人ニ限り之ヲ罰スルモノニシテ狹キニ

失スルヨリ本條ハ廣ク授受シタル者ト改メタリ

本條ニ於テ最モ注意スヘキ點ハ罰金額ノ多キコト是ナリ蓋シ此種ノ犯罪ハ固ト貧態ヨリ惹キ起サルルモノナレハ之ヲ未發ニ防止シ若クハ事後ニ懲戒スルニハ多額ノ財産刑ヲ制裁トシ其貧慾ヲ抑壓スルニ若クハナシ是レ本條及ヒ第百八十六條ニ多額ノ罰金ヲ以テ刑罰トスル所以ナリ

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

本章ハ舊刑法第二編第七章及ヒ第二百六十三條ヲ合シ之ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリ

タル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ

百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ禮拜所ニ對スル犯罪ヲ處罰スル規定ニシテ前段ハ神祠佛堂、墓所其他ノ禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アル者ヲ罪トシテ處罰ス蓋シ本章ノ犯罪ハ總テ國民ノ宗教信念ヲ害スルコトヲ嚴禁スル爲メニ設クルモノナレハ假令神祠等ニ對シ不敬ノ行爲ヲ爲スモ秘密ニシテ何人ニモ目撃

セシメサルトキハ公衆ノ信念ヲ害スルコトナキニ之ヲ所謂スル必要ナシ是レ本條ニ公然云々
ト規定シ不敬ノ行爲ハ公ケニシテ衆人ノ耳目ニ觸レ其宗教信仰ヲ傷害シ得ヘキモノナルコトヲ
犯罪成立ノ一要件ト爲シタル所以ナリ

後段ハ説教、禮拜、葬式ヲ妨害シタル罪ヲ規定ス此犯罪モ亦公衆ノ宗教信仰ヲ傷害スル犯罪ナ
リト雖モ前段ノ犯罪ニ比スレハ犯情輕シ是レ其刑ノ輕キ所以ナリ

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ犯罪モ前條ト同シク國民ノ宗教心ヲ傷害スル犯罪ナレハ墳墓ヲ發掘シタルノミニテ之ヲ
犯罪トシ屍體ヲ露出シ若クハ遺棄シ又ハ毀損シタル行爲ハ次條ニ於テ重ク處罰スルコトトセリ

第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル者ヲ損壞、遺棄又

ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ屍體、遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物品ヲ損壞シ又ハ遺棄シ若クハ不正ニ奪取シタル
行爲ヲ罰スル規定ニシテ犯情前條ヨリ重キニ因リ特ニ本條ヲ設ケテ其刑罰ヲ重クセリ

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏

置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役

ニ處ス

本條ハ第百八十九條ノ罪ヲ犯シ(即チ墳墓ヲ發掘シタル)上第百九十條ニ於テ禁止スル所ノ行爲ヲ爲シタル
犯罪ナルニヨリ特ニ其刑罰ヲ重クセリ

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金

又ハ科料ニ處ス

檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬ル者ハ往々人ヲ毒殺シタル等ノ場合ニ之レアリ爲ニ犯罪ノ證據ヲ煙
滅シ私人法網ヲ逃ルル弊害ヲ生ス故ニ變死者アルトキハ必ラス醫師ノ檢案及ヒ當該官吏ノ檢視
ヲ受ケシメ若シ檢案ヲ經スシテ葬リタル者アルトキハ如何ナル事由ニヨリ死亡シタルヲ問ハス
本條ニ依リ之ヲ處罰スルコトトナセリ

第二十五章 瀆職ノ罪

本章ハ舊刑法第二編第九章官吏瀆職罪ノ中其第二節官吏人民ニ對スル罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタ
ルモノニシテ瀆職罪ハ公務員カ其職權ヲ濫用シ越權不法ノ行爲ヲ爲シ又ハ貪汚ノ行爲アリ官職
ノ威嚴ヲ汚瀆スル場合ニ成立スルモノナリ

第百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又

ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ公務員カ職權ヲ濫用シテ個人ノ自由權ヲ蹂躪シタル行爲ヲ罰スル規定ナリ本條ヲ分析スレハ左記二個ノ犯罪トナル

- (一) 公務員カ職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメタル罪例ヘハ法令又ハ町制條例ニ何等ノ明文ナキニ拘ハラヌ町村長カ村民ノ或者ヲシテ祭禮ノ爲メ或建造物ヲ築造セシメタルカ如シ

- (二) 公務員カ職權ヲ濫用シ個人ヲシテ正當ニ行フヘキ權利ノ行使ヲ妨害シタル罪例ヘハ衆議院議員選舉權者カ選舉ヲ爲サントスルニ當リ警察官カ職權ヲ濫用シ其選舉ヲ行ハシメサルカ如シ

第百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者ノ職務ニ關スル三個ノ罪ヲ規定ス

- (一) 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ人ニ對シ暴行又

ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタル罪

- (二) 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ人ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタル罪

- (三) 法律命令ノ規定ニ基キ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタル罪

第百九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲アルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

本條ハ官吏ノ逮捕監禁罪ヲ規定スルモノニシテ大別スレハ二種トナル

- (一) 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者職權ヲ濫用シ不法ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタル罪
- (二) 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ補助スルモノ職權ヲ濫用シ不法ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタル罪

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第九十三條以下三ヶ條ノ刑ハ單ニ官紀ヲ紊亂シ職權ヲ濫用シタル點ノミヲ觀察シテ其刑ヲ定メタルモノナレハ其犯罪ノ結果人ヲ死亡セシメ若クハ傷害ヲ受ケシメタルトキ其死傷ニ致ラシメタル點ヲ參酌シテ其刑ニ重クセサル可ラス是レ本條ニ於テ前三條ノ刑ト第二十七章ニ規定スル傷害罪ノ刑ト比較シ重キニ從テ處斷スト規定セル所以ナリ

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テハ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價格ヲ追徵ス

本條ハ有名ナル賄賂罪ノ規定ニシテ舊刑法ハ唯官吏ノミニ對シテ之ヲ規定シ其後明治二十三年法律第百號ヲ以テ之ヲ公吏ニ準用セシモ各種ノ議員其他ノ公職者ニ適用スル能ハス年來其不便ヲ感シ來リシニ因リ新刑法ハ官吏公吏以外ノ公務員(第七條參照)及ヒ仲裁人(民事訴訟法第七百八十六條以下參照)ニ對シテ

モ本條ノ規定ヲ適用シ廣ク官職公務ニ從事スル者ヲシテ賄賂ノ爲メ不正ニ其職務ヲ執行スルコトナカラシメントセリ

本條第一項ノ罪ハ大別シテ左ノ四種トナル

- (1) 公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シテ或人ヨリ賄賂ヲ收受シタル罪
- (2) 公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シテ或人ニ對シ賄賂ヲ要求シタル罪
- (3) 公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シ或人ヨリ賄賂ヲ受クル約定ヲ爲シタル罪
- (4) 前記三個ノ罪ヲ犯シ(即チ賄賂ヲ收受シ又ハ賄賂ヲ受クル約束ヲ爲シ)因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル罪

賄賂罪ハ本來貪欲ノ爲メ官職公務ヲ汚濁スルニ至ルモノナレハ此種ノ犯罪者ヲ懲戒スルニハ須ラク收受シタル賄賂ヲ取上ケ以テ不正ナル貪欲心ヲ懲ラシメサル可ラス是レ本條第二項ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收シ若シ已ニ費消シタル等ニテ現實ニ沒收スルコト能ハサルトキハ其代價ヲ追徵スト規定セル所以ナリ

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコト

ヲ得
 賄賂ヲ贈リシ行爲ハ犯罪ナルハヤ犯罪トセハ正犯ナルハ將タ從犯ナルハ舊刑法ノ下ニ於ケル大問題ニシテ賄賂ヲ贈リシ行爲カ從犯又ハ教唆トナルモ正犯トナルコトナシトノ學說アリ又之ニ反對スル學說アリ兎ニ角解釋上ノ一大疑問タリシニヨリ新刑法ハ本條ヲ設ケ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付シ又ハ賄賂ヲ提供シ又ハ賄賂ヲ贈クルコトヲ約束シタル者ハ一種特別ノ犯罪トシ疑問ノ種子ヲ絶タシムルコトトセリ
 自首シタルモノニ刑ノ減輕又ハ免除ノ恩典ヲ與フル理由ハ第八十七條ニ說明セリ

第二十六章 殺人ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第一章第一節謀殺故殺ノ罪同第五節自殺ニ關スル罪ノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑法第二百九十三條乃至第二百九十八條ノ規定ハ殺人罪ノ情況若クハ當然ノ規定ナルヲ以テ全然之ヲ刪除シタリ

第百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前述ノ如ク新刑法ハ舊刑法ノ採用セシ謀殺、故殺、誤殺、毒殺等ノ區別ヲ廢シ唯一ノ殺人罪ヲ

置クニ至リシヲ以テ刑ノ範圍ヲ廣クシ各種ノ殺人罪ヲ處罰セサル可ラス是レ舊利法カ「死刑ニ處ス又ハ無期徒刑ニ處ス」トアリシヲ改メテ死刑又ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處スト規定セル所以ナリ蓋シ殺人罪ニ付キ謀殺故殺ヲ區別スル法制ノ可否ハ現時法學者界ノ一大問題ナリト雖モ理論上殺人行爲ニ就キ豫謀ノ有無ヲ區別シ能ハサルノミナラス之ヲ實際ニ鑑ミレハ謀殺必シモ重シト云フ可ラス故殺必シモ輕シト云フ可ラサレハ已ニ刑ノ範圍ヲ廣クスル以上ハ全然必要ナキ區別タルヲ以テ新刑法ハ他ノ規定ト共ニ此區別ヲ廢シタリ

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ舊刑法以來存在スル所ノ殺親罪ノ規定ニシテ舊刑法第二百六十二條第一項ハ犯人カ自己ノ祖父母母ヲ謀殺若クハ故殺シタル場合ノミヲ規定スト雖モ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル場合モ普通ノ殺人罪ヨリ重ク處罰スル必要アリ蓋シ家族制度ノ當今存在スル我邦ノ家庭ニ於テハ配偶者ノ直系尊屬親ヲモ自己ノ直系尊屬同様ニ之ヲ尊敬セサル可ラサル必要アレハナリ

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

殺人罪ノ如キ情状重キ犯罪ニ對シテハ管ニ其未遂ヲ罰スルノミナラス尙ホ其準備行為ヲモ處罰シ以テ危害ヲ未發ニ防止スル必要アリ是レ未タ着手ニ至ラスト雖モ準備ヲ爲シタル者ヲ處罰スル所以ナリ然レトモ往々ニシテ情状輕キモノアルヲ以テ僅ニ二年以下ノ懲役ヲ科スルコトトシ尙ホ情状ニ因リ免除スルコトヲ得セシメタリ

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ舊刑法第三百二十條第三百二十一條ヲ修正シタル規定ニシテ分析スレハ四個ノ犯罪トナル

- (一) 人ヲ教唆シテ自殺セシメタル罪
何故教唆罪ヲ特別ニ規定スル必要アリヤ教唆ハ被教唆者カ罪ヲ犯セシトキ犯罪トナルモノナリ然ルニ自殺ハ本來犯罪ニアラサルユヘ人ヲ教唆シテ自殺セシムルモ總則第六十一條ニ謂フ所ノ教唆罪ナルモノ成立スルコトナシ是レ本條ニ於テ特ニ自殺教唆ヲ犯罪トシテ規定セル所以ナリ
- (二) 人ヲ幫助シテ自殺セシメタル罪

前述ノ如ク自殺ハ犯罪ニアラサレハ之ヲ幫助スルモ總則第六十二條ニ謂フ所ノ從犯ナルモノ成立スルコトナシ是レ本條ニ於テ自殺幫助ヲ一個獨立ノ犯罪ト規定スルニ至リシ所以ナリ

- (三) 被殺者ノ囑託ヲ受ケテ其人ヲ殺シタル罪
被殺者ノ承諾ヲ得テ其人ヲ殺シタル罪
人ハ自己ノ生命ヲ拋棄スル權利ナシ蓋シ個人カ自由ニ自己ノ生命ヲ處分スルニ至レハ爲ニ公益秩序ヲ紊亂スルニ至レハナリ既ニ個人カ自己ノ生死ヲ處分スルコト能ハストセハ甲カ乙ニ自身ヲ殺害スルコトヲ囑託スルモ若クハ甲カ乙ニ自身ヲ殺害スルコトヲ承諾スルモ其囑託若クハ承諾ハ無効ナルヲ以テ乙カ甲ヲ殺セハ乙ハ犯罪タラサルヲ得ス是レ前記(三)及ヒ(四)ノ規定ヲ設クルニ至リシ所以ナリ

第二百三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
未遂罪ヲ罰スル理由及ヒ未遂罪ヲ罰スル明文ヲ置ク理由ハ第四十四條及ヒ第八十六條ニ詳説セリ

第二十七章 傷害ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第一章第二節毆打創傷罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其修正ノ重ナル點ハ(一)舊刑法ハ毆打創傷罪ト名クト雖モ其語穩當ヲ缺キ爲ニ甚シク不便ヲ感スルハ爭フ可ラサル事實ナルヲ以テ新刑法ハ傷害罪ト名ケ汎ク身體傷害ニ關スル規定タルコトヲ明ニシ毆打以外ノ方法ニ依リ又ハ外部ニ創傷ヲ生セスシテ傷害ヲ生シタル場合ノ如キモ皆之ヲ包含セシムルコトト爲シ從來ノ疑義ヲ氷解セシメタリ
舊刑法ハ犯罪ノ結果ニ依リ刑ヲ異ニシ之レカ爲メ數條ヲ設ケタルモ新刑法ハ致死ノ場合ノミニ付キ特別ノ條文ヲ設ケ其他ノ場合ハ概括シタル規定ヲ設ケ廣キ範圍ノ刑ヲ定メ刑罰ノ輕重ハ一ニ判事ノ裁量ニ任シタリ

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ舊刑法ノ毆打創傷中廢疾ニ致シタル罪、篤疾ニ致シタル罪、疾病休業ニ致ラシメタル罪ニ該當シ之ヲ概括シテ人ノ身體ヲ傷害シタル者ト規定シタルニヨリ其刑期ノ範圍ヲ廣クシ前記諸種ノ犯罪ニ相當スル行爲ニ對シ裁判ヲシテ充分事情ヲ斟酌シ自由ニ適宜ノ刑ヲ科セシムルコトトセリ

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役

ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前條ハ單ニ身體傷害ニ對スル刑ヲ規定セリ故ニ若シ傷害ノ結果人ヲ死亡セシメタルトキハ殊ニ其刑ヲ重クシテ處罰スル必要アル所以ナリ是レ本條第一項ノ規定ヲ設クルニ至レル所以ナリ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ傷害シ終ニ死亡セシメタルトキハ殺親罪ヲ普通ノ殺人罪ヨリ重クスルト同一理由ニヨリ傷害致死罪ニ於テモ本條第二項ニ於テ尊屬親ニ對スル刑ヲ重クセリ

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

傷害罪ノ現場ニ於テ犯人ノ爲ニ勢ヲ助ケタル者ハ犯罪ノ幫助ヲ爲シ所謂從犯トナルモノアリ從犯ト云フニ至ラサル場合アリ從犯トナル場合ニ於テモ其情輕ク刑ヲ減輕シテ處罰スル必要アリ是レ新刑法カ本條ヲ特設スルニ至リシ所以ナリ

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ

輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

今茲ニ丁ナル者ニ對スル甲乙兩人カ共犯ノ關係ナク各々獨立シテ傷害ヲ加ヘ二個所ニ傷ヲ付ケタリトセンニ甲カ何レノ傷ヲ付ケ乙カ何レノ傷ヲ付ケシカ判明セサルコトアリ又唯々一個所ニ傷ヲ付ケシモ甲乙何人カ負傷セシメシカヲ知ルコト能ハサルコトアリ此ノ如キ場合ニ加害者ヲ知ル能ハサル爲メ甲乙兩人ヲ無罪トセハ犯人ニ法網ヲ免レシムル不都合アリ是レ本條ニ於テ甲乙兩人ヲ共犯者トシ各々別記傷害ニ付テノ責任ヲ負ハシメ第二百四條若クハ第二百五條ノ刑罰ヲ受ケシムルコトトセリ

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

人ニ暴行ヲ加フルモ些少ノ傷害ヲモ負ハセサルモノハ所謂傷害罪ニアラサレハ第二百四條ノ刑罰ヲ科スル要ナキモ他人ニ暴行ヲ加ヘシ熱ハ之ヲ不問ニ付ス可ラサルニヨリ刑ヲ減シテ之ヲ處罰スルコトトセリ

本條ヲ親告罪ト爲シタルハ此ノ如キ罪ハ輕微ニシテ被害者カ特ニ犯人ヲ處罰セシムル意思ヲ有セザルトキハ國家カ強テ之ヲ處罰スル利益ヲ有セザルニ由ル

第二十八章 過失傷害ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第一章第四節過失殺傷罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ過失トハ普通人カ豫見セサル可ラサル結果ニシテ而モ行爲者カ豫見シ得ヘカリシニ拘ハラス之ヲ豫見セザルコトヲ云フ

過失ニ基ク行爲トハ行爲者カ注意ヲ欠キシ爲メ豫見シ得ルニ拘ハラス豫見セザリシ所ノ結果ヲ發生シ若クハ其結果ノ發生ヲ妨止セザリシコトヲ云フ

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ過失ニ因リ人ヲ傷ケタル罪ニシテ「犯意ナケレハ犯行ナシ」テウ原則ノ例外トシテ處罰スルモノナルモ本來過失ニ因ル犯罪ナレハ單ニ財産刑ヲ以テ其制裁トセリ
本條ノ罪ヲ親告罪トセルハ實際ノ必要ニ基キタルモノニシテ此ノ如キ輕微ナル犯罪ハ寧ロ被害

者ノ意思ニ因テ處罰スルト否トヲ決スルヲ適當ト認メタルニ由ル

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
同シク過失罪ナルモ人ヲ死ニ致シタル罪ハ單ニ人ヲ傷害シタルモノヨリ其犯情重キニ因リ罰金額ヲ重クセリ本條ニ相當セル舊刑法第三百七條ニハ過失ノ原由トシテ疎虞懈怠又ハ規則慣習ノ不遵守ヲ豫想スト雖モ無用ノ語タルノミナラス徒ラニ疑義ヲ生スル嫌アルヲ以テ新刑法ハ此等ノ字句ヲ削リ單ニ過失ニ因テ人ヲ傷害シタル場合ヲ規定セリ

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

自己ノ營業上相當ノ注意ヲ爲スヘキモノカ其注意ヲ怠リ人ヲ死傷セシメタル者ハ普通人カ單純ナル過失ニ因リ人ヲ死セシメ若クハ負傷セシメタル者ヨリ其犯情重シ是レ本條ヲ新設シ第二百九條及ヒ第二百十條ヨリ重キ刑ヲ科スル所以ナリ

第二十九章 墮胎ノ罪

墮胎罪ハ胎兒カ自然ノ分娩期ニ產出スルニ先チ人工ヲ以テ胎兒ヲ母體ヨリ脱出セシムルニ因リテ成立ツ犯罪ニシテ大別スレハ四種ノ犯罪トナル(一)ハ懷胎セル婦人カ自ラ墮胎セル罪ニシテ

(二)ハ他人カ懷胎セル婦人ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタル罪(三)ハ他人カ懷胎セル婦人ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得シテ墮胎セシメタル罪(四)ハ醫師產婆等墮胎ニ關シ特別ノ技術ヲ有スル者カ墮胎セシメタル罪ナリ

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ前記第一種ノ墮胎罪ニシテ墮胎ハ其結果母體ヲ傷害スルノミナラス產兒ノ生命ヲ奪ヒ人道ノ上ヨリ考フルモ又國民衛生上ヨリ考察スルモ公益上之ヲ嚴禁セサル可ラス隨テ懷胎セル婦女自身モ墮胎スル權利ナシ故ニ其墮胎セル方法如何ヲ問ハス若シ墮胎セハ一年以上一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

前條ニ略說セシ如ク墮胎ハ公益上之ヲ嚴禁セルモノナレハ墮胎セル婦女ハ自ラ墮胎スルコト能ハサルハ勿論他人ニ囑託シテ墮胎セシムル能ハス又他人(殊ニ情夫等)ノ墮胎ヲ勸誘スルニ際シ之ヲ承

諾スル權利ナシ故ニ若シ婦女カ墮胎ニ關シ囑託ヲ爲シ又ハ承諾スルモ其囑託若クハ承諾ハ全然無効ナルニヨリ假令婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトスルモ同シク墮胎ニ關スル犯罪トシテ之ヲ處罰セサル可ラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第一百四十四條 醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商、婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

醫師、產婆、藥劑師、藥師商等ハ墮胎ニ關シ特別ナル知識ヲ有スル者ニシテ此等ノ者カ墮胎スルトキハ完全ニ其效ヲ奏シ其害普通人カ墮胎セシムル場合ヨリ重大ナリ是レ特ニ本條ニ於テ重刑ヲ以テ處罰スル所以ナリ

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシムル行爲スラ第二百十三條ニ於テ之ヲ處罰セリ況ニ懷胎セル婦女ノ承諾ナク若クハ囑託ヲ受ケス殊ニ暴行脅迫ヲ加ヘテ墮胎セシムルニ於テツヤ

是レ本條カ第二百十三條ヨリ刑ヲ重クシテ犯人ヲ處罰スル所以ナリ

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

前條ノ犯罪ハ往々暴行脅迫ヲ加ヘテ墮胎セシムルニヨリ懷胎ノ婦女ヲシテ死傷ニ致ラシムルコト又往々ニシテ之レアリ此ノ如キ場合ニハ前條ニ規定セル刑罰ハ以テ充分ナル制裁トナル能ハス故ニ第二十七章ニ規定セル傷害罪(第二百五條)ニ依リ二年以上十五年以下ノ懲役ニ處スルトトナセリ

第三十章 遺棄ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第一章第九節ノ規定ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノニシテ舊刑法ハ幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪ト名クテ雖モ不具者ヲ遺棄スル場合ヲ脱漏スルヲ以テ新刑法ハ之ヲ含蓄セシムル爲メ遺棄罪ト名ケタリ遺棄ハ身命ニ對シ危害ヲ生セシムル犯罪行爲ナリ

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要スヘキ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

「遺棄」ニハ二個ノ種類アリ(一)ハ現在ノ狀況ヨリ生命若クハ身命ニ害ヲ生シ可キ場所ニ移ス場合例ヘハ住宅ヨリ深林中ニ連レ行クカ如シ

(二)ハ生命身體ニ害ヲ生シ可キ危險ナル狀況ニ放任スル場合例ヘハ置キ去リニスルノ類ナリ

第二百十八條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

「保護スヘキ責任アル者」トハ親權者(民法第八百七十九條)後見人(民法第四編第六章)等法律上ノ義務トシテ老者、幼者、不具者、病者ヲ保護スヘキ責任アル者ト云フ義ナリ

法律上ノ義務トシテ老者等ヲ保護スヘキ責任アルニ拘ハラヌ或ハ之ヲ遺棄シテ顧ミス或ハ老者、幼者、病者カ生存スルニ必要缺ク可ラサル衣服、食料、藥劑等ヲ給與セサル者ハ單純ナル遺棄(前條ニ規)ヨリ其犯情重ク其害モ亦重大ナルニ因リ殊ニ刑罰ヲ重クシテ之ヲ嚴禁スル必要アリ是レ前條ノ外特ニ本條ヲ設クルニ至レル所以ニシテ第一項ハ直系尊屬以外ノ有責者ヲ罰スル規定ニシテ三月以上五年以下ノ懲役ニ處セラレ第二項ハ直系尊屬ニ對スル刑ニシテ六月以上七年以下ノ懲役ニ處スルコトトセリ

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

前二條ノ罪ヲ犯ス結果ハ老者、幼者、不具者、病者ヲ死亡若クハ傷害ニ至ラシムルコトアリ此ノ如キ場合ニハ前條ノ刑ヲ以テ充分ナル制裁ト云フ能ハサレハ第二十七章ノ傷害ノ罪殊ニ第二百四條及ヒ第二百五條ノ刑罰ト比較シ重キ刑ヲ科シテ懲戒ノ效ヲ奏セシメントス

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

本章ノ規定ハ舊刑法第三編第一章第六節ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ不法逮捕、監禁ノ罪ヲ規定セルモノナリ

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

「逮捕」トハ監禁以外ノ方法ニ依リテ身體運動ノ自由ヲ全然奪ヒ去ルヲ云フ

「監禁」トハ閉鎖セラレタル一定ノ場所ニ人ヲ拘禁スルヲ云フ

本條ハ一個人ヲ不法ニ一個人ノ身體ノ自由ヲ奪フ行爲ヲ處罰スル規定ニシテ官吏カ職權ヲ濫用シテ一個人ノ自由ヲ剝奪セシ行爲ヲ犯罪トシテ處罰スル第百九十三條ト相俟ツテ國民身體ノ自由ヲ保障スル規定ナリ

自己又ハ配偶者ノ直系尊族ヲ逮捕又ハ監禁スルハ妄リニ其身體ノ自由ヲ剝奪スル罪惡ノ外我國古來ノ良俗タル孝道ニ背反スルコトアルヲ以テ殊ニ其刑ヲ重クスル必要アリ是レ本條第二項ヲ新設シテ其刑ヲ重クセシ所以ナリ

第二百一十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

逮捕監禁ハ往々ニシテ被害者ノ身體生命ヲ害シ死傷ニ至ラシムルコトアリ此ノ如キ場合ニハ前條ノ刑罰ヲ以テ充分ノ制裁トナス能ハス是レ本條ニ於テ其刑ヲ重クスル爲メ第二十七章傷害ノ罪ノ刑罰ト比較シ重キ刑罰ヲ以テ處罰セシムル所以ナリ

第三十二章 脅迫ノ罪

脅迫罪ハ安全ニ權利ヲ享有シ平靜ノ狀態ニアル者ノ心神ノ平和ヲ害スル罪ニシテ本章ハ舊刑法

第三編第一章第七節ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

「親族」ノ意義ハ民法第七百二十五條ニアリ即チ六親等内ノ血族、配偶者、三親等内ノ姻族是ナリ

脅迫罪ハ人ノ心神ノ平和ヲ破ルニ依テ成立ツ犯罪ナルコト前述ノ如シ而シテ其心神ノ平和ヲ破ルハ生命、身體、自由、名譽、財産ヲ害ス可キ通告ヲ爲シタルトキヲ主要ナル場合ト爲スニヨリ生命以下財産ニ對シ被害ヲ加フヘキコトヲ被害者タルヘキ者ニ通告シタルトキ本罪ハ成立スルモノトス蓋刑法ハ人ヲ殺サント脅迫シ又ハ放火セント脅迫シ等ト規定シ脅迫ノ方法ヲ列擧スト雖モ適用ヲ制限スル憂アルニヨリ新刑法ハ此ノ如キ規定ヲ刪除セリ親族(例ヘ)ノ生命、身體、自由、名譽、財産、ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ子ヲ脅迫スルトキハ其害カ子其人ノ生命、身

體、自由、名譽、財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ子其人ヲ脅迫シタル場合ト異ナルコトナ
キニヨリ前項ト同シク脅迫罪トシテ處罰スルコトトセリ

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キ

コトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ
行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

觀族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ
脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル
者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ脅迫罪其モノニアラサルモ脅迫罪ニ牽連シテ發生スルモノニシテ特ニ犯罪トシテ之ヲ處
罰スル必要アルモノナルニ因リ舊刑法ニナカリシ規定ナルモ新刑法ハ特ニ之ヲ創設スルニ至レ
リ今説明ノ便宜上本條第一項ノ規定ヲ分析スレハ左記四個ノ犯罪トナル

- (一) 生命、身體、自由、名譽、財産ニ對シ害ヲ加フヘキ事ヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事
(法律命令ノ規定上之ヲ行フノ義務ナキコトナリ)ヲ行ハシメタル罪

- (二) 生命、身體、自由、名譽、財産ニ對シ害ヲ加フヘキ事ヲ以テ脅迫シ人ヲシテ行フヘキ權
利(法律命令ノ規定ニ因リ)ヲ妨害シタル罪

- (三) 生命、身體、自由、名譽、財産ニ對シ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメタル罪

- (四) 生命、身體、自由、名譽、財産ニ對シ暴行ヲ用ヒ人ノ行フヘキ權利ヲ傷害シタル罪
- 親族(例ハ妻)ノ生命、身體、自由、名譽、財産ニ對シ害ヲ加フヘキ事ヲ以テ脅迫シ夫ヲシテ義務
ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ傷害シタル者ハ初ヨリ夫其人ニ對シテ脅迫ヲ爲シ義務
ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ傷害シタルト其害相伯仲スルニヨリ前記(一)及ヒ(二)ノ場合ト
同シク一月以上三年以下ノ懲役ヲ以テ刑罰トセリ

第三十三章 略取及誘拐ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第一章第十節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ未成年者及ヒ婦女子ヲ略
取スル罪ヲ規定セルモノナリ

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下
ノ懲役ニ處ス

「略取」トハ暴行又ハ威嚇手段ニ因リ現在ノ場所ヨリ他ノ場所ニ連レ去ルヲ云フ

「誘拐」トハ詐欺又ハ誘導ノ方法ニヨリ現在ノ場所ヨリ他ノ場所ニ違レ行クヲ云フ
 本條ハ未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル行爲ヲ犯罪トシテ之ヲ處罰ス蓋シ成年者ヲ略取若クハ誘
 拐セントスルモ智能十分發達シ居ルニヨリ略取誘拐ノ效ヲ奏スル能ハス隨テ害ヲ生スルコト稀ナ
 リ故ニ特ニ犯罪トシテ之ヲ禁スル程ノ必要ナキユヘ成年者ニ對スル略取誘拐罪ナルモノナシ但
 未成年者ナレハ男女ヲ問ハス略取誘拐ノ爲メ害ヲ受ケ隨テ公益秩序ヲ紊亂シ善良ノ風俗ヲ傷害
 スルコトアルニ因リ一般ニ略取誘拐罪ノ成立ヲ認め刑罰ヲ以テ此種ノ行爲ヲ嚴禁センコトヲ期
 セリ

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シ
 タル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ利益ヲ得ル目的ヲ以テ又ハ猥褻ノ行爲ヲ爲ス目的或ハ結婚スル目的ヲ以テ偽計若クハ威
 力ヲ用ヒ人(未成年者タルト成年者タルトナラハス)ヲ略取誘拐スル者ハ其目的ニ於テ大ニ惡ムヘキ點アリ加之其手段
(即チ偽計若クハ威力ヲ用ユルコト)モ猥褻ニシテ恐ルヘキユヘ重刑ヲ以テ嚴禁スル必要アリ是レ舊刑法ニ存在セザ
 リシ規定ナルニ拘ハラヌ新刑法カ重刑ヲ設クル爲メニ本條ヲ特設スルニ至リシ所以ナリ

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル
 者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ
 帝國外ニ移送シタル者亦同シ

本條ハ特殊ノ目的ヲ有スル略取誘拐ノ行爲(第一)及ヒ略取誘拐ニ關聯スル行爲(第二)ヲ處罰スル
 規定ナリ何レモ略取誘拐罪ニ牽連スル犯罪ナルヲ以テ序次本章ニ規定スルニ至レリ本條ノ犯罪
 ヲ分析列記スレハ左記四個トナル

- (一) 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ未成年者ヲ略取誘拐シタル罪
- (二) 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ偽計若クハ威力ヲ用ヒ人(未成年者及ハ成年者)ヲ略取誘拐スル罪
- (三) 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シタル罪
- (四) 略取誘拐セラレシ者又ハ賣買セラレタル者ヲ帝國外ニ移送シタル罪

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐者
 又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年
 以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以
 上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條第一項ハ總則第六十二條ニ規定スル從犯者ノ犯罪ナレトモ通常從犯ノ如ク正犯者ノ刑ヨリ減輕スルトキハ其刑輕キニ失シ加之其刑一定セサルヲ以テ本條ヲ特設シテ其刑ヲ一定セリ而シテ本條ノ犯罪ヲ分析説明スレハ左記二個トナル

(一) 第二百二十四條以下三個條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ誘拐セラレタル者ヲ收受シ又ハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル罪

(二) 第二百二十四條以下三個條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ賣買セラレタル者ヲ收受シ又ハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル罪

第二項ニ規定スル所ハ營利ノ目的ヲ以テ又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ誘拐セラレタル者若クハ賣買セラレタル者ヲ收受シタル罪ニシテ學說ニ所謂事後從犯ナリ而シテ事後從犯ハ從犯ニアラサレハ特別ノ規定ヲ設ケテ之ヲ處罰スル必要アリ(贓物收受ノ罪ノ如シ)是レ特ニ本條第二項ニ設ケテ此種ノ行爲ヲ處罰スル意ヲ明ニスル所以ナリ

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

未遂罪ヲ罰スル理由及ヒ未遂罪ヲ罰スル明文ヲ置カサル可ラサル理由ハ第四十四條及ヒ第八十六條ニ説明セリ

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ

犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ効ナシ

本條ハ第二百二十六條ノ犯罪及ヒ同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項及ヒ以上二罪ノ未遂罪ヲ除キ營利ノ目的トセサル場合ノ外本章ノ犯罪ハ被害者ヨリ告訴スルニアラサレハ檢事起訴ノ手續ヲ爲ササルコトトセリ但此等ノ犯罪ト雖モ營利ノ目的ニ出テタルトキハ告訴ヲ俟タスシテ檢事起訴ヲ爲シ裁判所之ヲ受理審判ス蓋シ此ノ如キ犯罪人ハ其惡意モ甚シク其犯罪ノ結果モ恐ルヘキモノアルニ因リ告訴ヲ俟テ之ヲ處罰スルモノトセハ大惡ヲ不問ニ付スル結果ヲ來タヌニハ新刑法ハ之ヲ親告罪ノ例外トナセリ
又前述セシ犯罪ト雖モ誘拐セラレシ者又ハ賣買セラレシ者カ犯人ト結婚シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニアラサレハ告訴ノ効ナシトセシハ若シ婚姻中此等ノ犯罪ノ告訴ヲ爲シ之ヲ起訴セシムルトセハ爲ニ一家内ニ風波ヲ起ス恐レアルニヨルナリ

第三十四章 名譽ニ對スル罪

誹謗トハ名譽ヲ毀損スル行爲ニシテ名譽トハ社會上ニ於ケル人類ノ價值ナリ故ニ誹毀罪トハ人類カ社會上ニ於テ風儀、信用、公德等ニ關シ他人ヨリ受クル所ノ尊敬ヲ毀損スル所ノ行爲ナリ本章ハ舊刑法第三百五十八條第三百五十九條第四百二十六條第十二號ヲ修正シテ設ケタル規定ナリ

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有

無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

「事實ヲ摘示シ」トハ某ニ何々ノ惡事アリタリ或ハ某ノ妻ハ姦通シタリナトト實際上ノ事柄ヲ示スヲ云フ

「事實ノ有無ヲ問ハス」トハ前述セシ如キ事實カ實際有シト無カリシトヲ問ハスト云フ意味ナリ本條第一項ハ所謂誹毀罪ノ規定ニシテ公ケニ何人モ聞知シ得ヘキ狀況ニ於テ事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スヘキコトヲ規定スルモノナリ

第二項ハ死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ヲ規定スルモノニシテ人ハ死亡ト共ニ權利義務ノ主體タル資格ヲ失フ隨テ社會ニ於ケル地位ヲ喪失スルモノナレハ誹毀罪ノ被害者タルコト能ハサルモノ

ナリ但誣罔ノ事(即チ不實ノ事)ヲ以テ死者ヲ誹毀セハ死者ノ親族ニシテ生存スル者全體ノ名譽ヲ毀損スルニ至ル是レ本項ニ於テハ名譽毀損ニ誣罔ヲ要件トスル所以ナリ

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又

ハ科料ニ處ス

本條ハ事實ヲ摘示セス單純ニ人ヲ侮辱シタルモノニシテ被害者ノ名譽ヲ毀損スルコト少ク且ツ犯人ノ惡ムヘキ情狀モ前條ヨリ輕微ナルニ因リ輕刑ヲ以テ處罰スルコトトナセリ

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本章ノ罪ヲ親告罪トスル理由ハ名譽ヲ毀損セラレタルヤ否ヤハ被害者本人ニアラサレハ之ヲ確知シ難ク好シ他人ニ於テ之ヲ確知シ得ルトスルモ本人カ名譽ヲ毀損セラレタル事實ヲ秘セントスルニモ拘ハラズ檢事之ヲ起訴シ裁判所公廷ニ於テ之ヲ審判スルニ於テハ却テ被害者ノ名譽毀損ノ度合ヲ廣大ナラシムル結果トナル是レ被害者ノ告訴ヲ俟ツテ此等ノ犯罪ヲ審理裁判スル事ト爲シタル所以ナリ

第二十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

本章ハ舊刑法第五編第八章商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪ノ規定ヲ修正シテ設ケタルモノナリ

第二百三十三條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ人ノ信用及ヒ業務ヲ妨害スル犯罪ニシテ細別スレハ左ノ四種トナル

- (一) 虚偽ノ風説ヲ流布シ人ノ信用ヲ毀損シタル罪
- (二) 虚偽ノ風説ヲ流布シ人ノ業務ヲ妨害シタル罪
- (三) 偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シタル罪
- (四) 偽計ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル罪

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ他人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

本條ハ威壓暴力ヲ用ヒ他人ノ業務ヲ妨害シタル罪ヲ規定スルモノニシテ其害惡前條ノ場合ト相等シキニヨリ前條ト同様ノ刑罰ヲ科スルコトトナセリ

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

舊刑法ハ竊盜ト強盜トヲ區別シ別異ノ節目ヲ設クト雖モ此二種ノ罪ハ元來其性質ヲ同ウスルヲ以テ之ヲ一章ニ集合スルヲ便利ナリトス故ニ新刑法ハ此ノ如キ區別ヲ全廢シ舊刑法第三編第二章中第一節及ヒ第二節ヲ合シテ之ヲ修正シ本章ノ規定ヲ設ケタリ

舊刑法第三百六十七條乃至第三百七十條及ヒ第三百七十二條乃至第三百七十四條ハ皆竊盜ノ情狀ニ因リ設ケタル區別ニシテ何等ノ實益ナキノミナラス爲ニ却テ刑ノ範圍ノ狹隘ヲ來タシ適用上ノ不便少カラサルニヨリ新刑法ハ此ノ如キ煩雜ナル規定ヲ廢毀シ刑ノ範圍廣キ規定ヲ設ケ裁判官ノ認定スル情狀ニ應シ適宜ノ刑ヲ科セシメントセリ

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ唯一ノ竊盜罪ニ關スル規定ニシテ前述セシ如ク舊刑法カ竊盜罪ニ關シ其情狀ニ因リ設ケアリシ種々ノ規定ヲ全廢セシノミナラス屋外竊盜ニ關シ設ケタル明治二十三年法律第九十九號モ本條中ニ包含セシムルコトトセリ蓋シ是レ又竊盜罪ノ一種ニ過キサレハナリ

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第一項ハ舊刑法以來存在スル所ノ強盜罪ヲ規定シタルモノニシテ第二項ハ強盜罪同様ノ處罰ヲ必要トシ新刑法カ創設シタル規定ニシテ之ヲ分析スレハ左記二個ノ犯罪トナル

- (一) 暴行又ハ強迫ヲ以テ財産上ニ不法ノ利益ヲ得タル罪例ヘハ甲カ乙ニ對シ暴行ヲ以テ自己ニ金拾圓ヲ辨濟スヘキ債務ヲ承認セシメタル行爲ノ如シ
- (二) 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ヲシテ財産上ノ利益ヲ得セシメタル罪例ヘハ甲カ乙ヲ脅迫シ丙ニ金拾圓ノ債務ヲ辨濟スヘキ義務ヲ承認セシメタル行爲ノ如シ

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタタ者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

豫備ヲ罰スル理由ハ第七十八條ニ説明セリ

第二百三十八條 窃盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

強盜ハ通常財物ヲ取得スル前暴行脅迫ヲ爲スモノナレハ財物ヲ竊取シタル者カ竊以後暴行脅迫ヲ爲シタル場合ハ之ヲ強盜ト云フ可ラサルニ因リ特ニ本條ヲ設ケテ竊盜カ暴行脅迫ヲ爲シタル

行爲ヲ強盜同様處罰スルコトトナセリ

本條ヲ分析スレハ左記三個ノ犯罪トナル

- (一) 竊盜カ財物ヲ得タル後其取還ヲ拒ク爲メ應時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル罪
- (二) 竊盜逮捕ヲ免ルル爲メ應時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル罪
- (三) 竊盜罪跡ヲ湮滅スル爲メ應時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル罪

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ

論ス

他人ノ財物ヲ奪取スルニ當リ有形的ニ所有者ニ暴行脅迫ヲ加フルト劇藥若クハ酒類ヲ服用セシメ其精神ヲ昏醉セシメ其抵抗力ヲ抑壓シ以テ財物ヲ奪取スルトハ其犯情ニ於テモ又害惡ノ程度ニ於テモ殆ント些少ノ差異ナキニ因リ本條ハ人ヲ昏醉セシメテ財物ヲ盜取シタル所爲ヲ以テ強盜罪ノ一種トナセリ

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百三十六條ニ規定セル五年以上十五年以下ノ懲役ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ財物ヲ奪取シタル

所爲ノミノ制裁ナリ故ニ若シ暴行脅迫ヲ以テ財物ヲ奪取シタル外更ニ人ヲ死亡若クハ負傷セシメタルトキハ特ニ其刑ヲ重クシテ處罰セサル可ラス是レ第二百三十六條ノ外特ニ本條ヲ設クル所以ナリ

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役

ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

強盜カ婦女ヲ強姦シタルハ恰モ強盜カ人ヲ死傷セシメタル場合ト同シク第二百三十六條ノ刑罰ノ外特ニ重キ刑ヲ加フル必要アリ是レ本條カ強盜シテ且ツ強姦シタル者ノ刑ヲ特別ニ定ムル所以ナリ

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命令

ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物

ト看做ス

強竊盜罪ハ他人ノ財物ニ對シテ行ハルルコトヲ本來ナリトスルモ自己ノ財物ニ對シテモ盜罪ノ成立スルコトアリ蓋シ自己ノ財物ニ對シ他人カ或種ノ權利ヲ有スルトキハ妄リニ之ヲ奪取セハ他人ノ權利ヲ侵害スル結果ヲ生セシムレハナリ而シテ所有者カ自己ノ物ヲ奪取シテ犯罪ノ成立

スル場合ハ他人カ占有權ヲ有スル場合及ヒ公務所ノ命令ニ因リ他人カ看守スル場合はナリ此ノ如キ場合ニハ他人カ或種ノ權利ヲ有スルヲ以テ之ヲ奪取セハ其權利ヲ侵害ス而シテ其權利侵害ノ結果ハ他人ノ所有權ヲ侵害シタルト異ナルコトナキニ因リ竊取セハ竊盜罪トナリ暴行脅迫ヲ以テ奪取セハ強盜罪トナルナリ

第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至

第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

未遂罪ヲ罰スル理由及ヒ未遂罪ヲ罰スル明文ヲ置ク必要ハ第四十四條及ヒ第八十六條ニ於テ說明セリ

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ

第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ

親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

「直系血族」トハ傍系血族ニ對スル語ニシテ祖父母、父母、子、孫、ノ如ク尊屬親ヨリ直下スル血族ヲ云フ而シテ父母ノ兄弟ハ子タル者ノ地位ヨリ見レハ祖父母ヨリ傍ニ分岐シタル血族ナレ

ハ傍系血族ナリ

「家族」トハ戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ナリ(民法第七百三十二條)

本條ハ舊刑法以來有名ナル親族相盜ノ規定ニシテ親族關係ノ厚薄及ヒ共犯關係ニヨリ三種ニ分テ規定セリ

(一) 直系血族、配偶者、同居ノ親族、同居ノ家族間ニ於ケル竊盜罪及ヒ竊盜罪ノ未遂罪ハ有罪ナルモ其刑ハ全免ス

蓋シ個人カ各個各別ニ財産ヲ所有シ得ル原則ノ確定シタル今日ニ於テハ親子、夫妻間ト雖モ竊盜罪ノ成立シ得ルコト勿論ナリト雖モ若シ之ヲ犯罪トシテ犯罪必罰ノ原則ヲ勵行セハ圓滿ナル家族生活ヲ營マシムル能ハサルニ因リ法理上有罪ナルモ刑ハ科セサルコトトセシナリ

(二) 傍系親族間ニ於ケル竊盜罪ハ勿論犯罪トシテ所罰スヘキモノナリト雖モ檢事カ職權ヲ以テ當然起訴シ其處罰ヲ勵行セハ被害者ノ意ニ反シ親族間ノ交情ヲ傷害スル恐アルニ因リ被害者ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スルコトトセリ

(三) 親族又ハ家族間ノ竊盜罪ナルモ他人カ共犯トシテ加リ居ルトキ其他人ハ普通ノ竊盜罪及ヒ竊盜未遂罪トシテ處罰ス是レ親族又ハ家族ノ關係ナキ共犯人ハ前記(一)ニ云フ如キ理由ナ

キニヨリ犯罪必罰ノ原則ヲ勵行セサル可ラス又(二)ニ云フ如キ理由ナキヲ以テ親告罪トスル必要ナキニ由ルモノナリ

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

電氣カ物ナルヤ否ヤハ獨逸及ヒ我國學者實際家間ニ於ケル一大疑問ニシテ先年橫濱市ニ於テ電流ヲ漏シ電氣ヲ不法ニ利用シタル以來一層疑問ノ聲ヲ高メ學者研鑽ノ嚙點タリシモ電氣ハエネルギー即チ力ニシテ物ニアラス蓋シ物トハ一體トシテ獨立ノ存在ヲ有シ吾人ノ利用ニ供シ得ヘク且ツ現實ニ捕捉シ得ヘキモノナラサル可ラス電氣ノ如キハ息味、音響等ノ如ク有形的ニ捕捉シ得ヘキモノニアラサルユヘ物ニアラス然レトモ物ニアラストシテ竊盜罪ノ目的物タラストセハ其弊害云フ可ラサルモノアリ是レ本條カ電氣ハ物ニアラサルコトヲ前提シナカラ特ニ之ヲ財物ト看做シ竊盜罪ノ目的物タラシムル所以ナリ

第三十七章 詐欺罪及ヒ恐喝ノ

本章ハ舊刑法第三編第二章第五節中詐欺取財ニ關スル部分ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其修正ノ主要ナル點ト見ルヘキハ詐欺取財ト恐喝取財トヲ區別シ之ヲ前條ニ規定シタルニアリ

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二編 罪 第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

「欺罔」トハ他人ヲシテ虚偽ノ事實ヲ誤信セシメントスル行爲ナリ
「騙取」トハ欺罔ニヨリ錯誤ヲ起サシメ其結果トシテ他人カ交付スルコトヲ同意セシメテ財物取受スルヲ云フ

本條ハ詐欺取財罪ノ規定ニシテ舊刑法カ恐喝取財罪ト共ニ規定シタルヲ不當トシ單純ニ詐欺取財罪ノミヲ規定シタルモノニシテ本條ノ規定ニ依レハ左記三個トナル

- (一) 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル罪
 - (二) 人ヲ欺罔シテ財産上不法ノ利益ヲ得タル罪
 - (三) 人ヲ欺罔シ第三者ニ財産上不利ヲ得セシメタル罪
- 財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ得セシメタル者ノ説明ハ第二百三十七條第二項ノ部ニアリ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以

下ノ罰金ニ處ス

本條ハ背信罪ノ一種ニシテ他人ノ爲メ或事務ヲ處理スルモノ自己又ハ第三者ノ利益ヲ計リ(又ハニ損害ヲ加フ)其委任セラレタル職務ニ基キ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルモノニシテ例ヘハ後見人カ自己ノ利益ヲ計リ其信用ニ背キ被後見人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル場合ノ如シ此種ノ行爲ハ社會ノ進化ニ伴隨シ奸智ノ増加スルニ從ヒ往々實際ニ發現ス而シテ理論上ニ於テハ民事訴訟ニ依リ損害賠償ヲ要求シ得ト雖モ事實上ハ概ネ其救済ナキト同一ニ屬ス加之此種ノ行爲ハ公益ヲ害スルコト本章及ヒ次章ニ規定スル所ノ犯罪ニ異ナラス是レ特ニ本條ヲ設ケテ其弊ヲ防止セントスル所以ナリ

第二百四十八條 未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

未成年者ノ智慮淺薄ナル者又ハ成年者ニシテ心神耗弱ノ狀況ニアルモノハ容易ニ他人ノ爲ニ財産上ノ利益ヲ奪取セラルルコト普通人カ他人ヨリ欺罔セラレタルト殆ント同一ノ状態ニアリ是レ本條カ詐欺取財罪ノ一種トシテ茲ニ規定セラレタル所以ナリ

本條ヲ分析スレハ左記六個ノ犯罪トナル

二六八

- (一) 未成年者ノ智慮淺薄ナルニ乘シ其財物ヲ交付セシメタル罪
- (二) 未成年者ノ智慮淺薄ナルニ乘シ不法ニ財産上ノ利益ヲ得タル罪
- (三) 未成年者ノ智慮淺薄ナルニ乘シ不法ニ他人ヲシテ財産上ノ利益ヲ得セシメタル罪
- (四) 人ノ心神耗弱ナルニ乘シ其財物ヲ交付セシメタル罪
- (五) 人ノ心神耗弱ナルニ乘シ不法ニ財産上ノ利益ヲ得タル罪
- (六) 人ノ心神耗弱ナルニ乘シ不法ニ他人ヲシテ財産上ノ利益ヲ得セシメタル罪

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

「恐喝」トハ主トシテ人間ノ行爲以外ノ變動(例ハ天災、神罰)ヨリ發生スル罪ヲ以テ人ヲ畏怖セシムルヲ云フ

本條ハ恐喝取財罪ノ規定ニシテ其罪種ヲ分析スレハ左記三個トナル

- (一) 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル罪
- (二) 人ヲ恐喝シテ不法ニ利益ヲ得タル罪
- (三) 人ヲ恐喝シテ不法ノ利益ヲ第三者ニ得セシメタル罪

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
未遂罪ヲ罰スル理由及ヒ未遂罪ヲ罰スル明文ヲ置ク理由ハ第四十四條及ヒ第八十七條ニ於テ説明セリ

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

本章ノ犯罪即チ詐欺取財罪及ヒ恐喝取財罪ニ付テモ他人ノ占有若クハ看守スル自己ノ所有物ヲ騙取若クハ交付セシメタルトキハ第二百四十二條ノ例ニ從ヒ他人ノ物ヲ騙取若クハ交付セシメタル場合ト同シク之ヲ處罰シ又親族及ヒ家族間ノ詐欺取財若クハ恐喝取財ニ付テハ第二百四十四條ノ例ニ從ヒ或ハ其刑ヲ全免シ或ハ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論ス又人ヲ欺罔若クハ恐喝シテ電氣ノ作用ヲ騙取若クハ交付セシメタル者ハ第二百四十五條ノ例ニ從ヒ財物ヲ騙取若クハ交付セシメタル場合ト同シク處罰ス

第三十八章 横領ノ罪

本章ハ舊刑法第三百九十五條及ヒ寄托ヲ受ケシ動産及ヒ不動産ノ冒認罪ニ關スル規定并ニ第三編第二章第三節遺失物及ヒ埋藏物ニ關スル罪ノ規定ヲ併合シ之レニ修正ヲ加ヘタルモノナリ
舊刑法ハ受寄財物ヲ費消スルカ又ハ騙取拐帶等ノ行爲アルニアラサレハ罪トナサザリシヲ以テ單ニ騙取ノ財物ヲ自己ノ物ト爲シタルノミニテハ何等ノ罪ヲモ構成セス唯民事上ノ救済ヲ求ムルノ外ナク其保護極メテ薄弱ナリシヲ以テ新刑法ハ費消又ハ拐帶スルニ至ラスト雖モ横領ノ行爲アリタル場合ニハ第二百五十二條ノ犯罪ト爲シタリ

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

「横領」トハ他人ノ物ヲ不法ニ自己ノ物トスル行爲ナリ

「占有」トハ自己ノ爲ニスル意思(例ヘハ所有權ヲ取得セントスル意思又ハ質權ヲ取得セントスル意思ト云フノ類ナリ)ヲ以テ物ヲ所持スルヲ云フ

第一項ハ舊刑法第三百九十五條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ他人ノ爲ニ他人ノ物ヲ占有スル者カ其物ヲ自己ノ所有物トシテ取扱フトキハ殊ニ之ヲ消費スルヲ俟タス直ニ犯罪トシテ之ヲ處罰スル爲メニ設ケタル規定ナリ

第二項ハ舊刑法第三百九十六條本文ノ規定ニ相當スルモノニシテ該條ニハ「官署ヨリ差押ヲ受ケタル自己ノ所有物ヲ藏匿又ハ脱漏シタル者」云々ト規定スレトモ藏匿又ハ脱漏ナル語ハ其意義狹キニ失シ適用ノ範圍ヲ制限スル弊アルヲ免レサレハ前項同様横領ト改メ事實審判官ヲシテ法ノ運用ヲ圓滿ナラシメントセリ

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

「業務上自己ノ占有スル」云々トハ職務上ノ關係ヨリ又ハ營業上ノ取引關係ヨリ他人ノ物ヲ占有スルト云フ意味ニシテ例ヲ舉クレハ官吏カ其職務ノ執行上金錢ノ委託ヲ受ケ又ハ倉庫會社ヨリ商品ノ寄託ヲ受クルノ類ナリ

舊刑法ハ受寄財物ニ關シ業務上他人ノ爲ニ占有スル場合ト否ラサル場合トノ區別ヲ爲サスト雖モ業務ニヨリ他人ノ爲ニ物ヲ占有スル場合ハ通常ノ場合ト異ナリ自ラ保管ノ責アルノミナラス一方ニハ交通取引ヲ妨ケ社會ノ信用ヲ妨クルコト大ナルヲ以テ此二者ヲ區別シ業務ノ關係ナク

單純ニ他人ノ物ヲ占有スル場合ハ前條ニ於テ規定シ業務上他人ノ物ヲ占有スル者カ横領ノ行爲ヲ爲シタルトキハ其罪狀重キヲ以テ特ニ本條ニ於テ之レカ規定ヲ爲シ其刑ヲ重クシタリ舊刑法第二編第九章第三節官吏財産ニ對スル罪即チ學說ニ所謂監守盜ノ如キハ當然本條中ニ包含セラレヘキモノナリ

第二百五十四條 遺失物、標流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ舊刑法第三百八十五條及ヒ第三百八十六條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ舊刑法ハ遺失物、漂流物及ヒ埋藏物ニ付テノミ規定スト雖モ新刑法ハ汎ク他人ノ占有ヲ離レタル物ヲ取得シ之ヲ横領シタル場合ニ付キテ規定ヲ設ケタリ

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

曰ク直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族、又ハ家族ノ間ニ於テ第二百五十二條乃至第二百五十四條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前記ノ例ヲ用ヒス

第三十九章 贓物ニ關スル罪

本章ハ舊刑法第三編第二章第六節ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノニシテ犯罪ニ因リ得タル物品ノ收受、運搬、寄藏、故買、牙保ニ關スル規定ヲ設ケシモノナリ

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ

千圓以下ノ罰金ニ處ス

「贓物」トハ犯罪ニ因テ占有ヲ取得シ(例ヘハ盜取、竊取ノ類)又ハ保持シ(例ヘハ遺失、物ノ藏匿)タル有體物ヲ云フ

「寄藏」トハ寄託ヲ受ケテ藏置スルト云フ意ナリ

「故買」トハ贓物タル情ヲ知テ殊更ニ買取リタルコトヲ云フ

「牙保」トハ贓物ノ取次ヲ爲スコトヲ云フ

本條ハ舊刑法第三百九十九條及ヒ第四百條ヲ併合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ犯罪ノ種類ニ依テ贓物ニ關スル刑罰ヲ異ニシタル規定ヲ廢シ贓物ニ關シ行フ所ノ犯行ノ種類ニヨリ其刑ヲ區別シ贓物ニ關スル犯罪及ヒ其刑ヲ定メタルモノナリ

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者

ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

直系血族、配偶者、同居ノ親族、同居ノ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者間ニ於テ贓物ヲ收受シ又ハ贓物ヲ運搬シ又ハ贓物ヲ寄藏シ又ハ贓物ヲ故買シ又ハ贓物ノ牙保ヲ爲ストキハ犯罪トシテ成立スルモ其刑ハ全免ス蓋シ此等ノ親族間ニ於テハ法律上財産權ハ各人各個ニ保有スルモ其實甲乙間ニ於ケル財産ハ共有ノ狀態ニシテ其間ニ財産權ノ侵害アルモノヲ認メサル風俗アリ是レ竊取ノ場合ニ於テモ第二百四十四條ニ於テ其刑ヲ全免スル所以ナリ故ニ贓物ニ關スル犯罪ニ於テモ此等ノ親族間ニハ或ハ收受アリ或ハ寄藏シタリト云フニ忍ヒサルモノアリ例ヘハ夫カ竊盜罪ヲ犯シ其贓物ヲ妻ニ渡シタリトセハ法理上ハ第二百五十六條第一項ニ所謂贓物ヲ收受シタル犯罪ナリト雖モ本條第一項ニヨリ其刑ヲ全免スル類ナリ
親族又ハ家族ニアラサル共犯者ハ本條第一項ノ恩典ニ與ラス前條第一項及ヒ第二項ニ規定スル區別ニヨリ相當ノ刑罰ヲ科セラル蓋シ共犯者ハ前述セシカ如キ特ニ刑罰ヲ全免スル理由ナケレハナリ

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第二章第十節家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ其修正セシ主要ナル點ハ官文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ官文書偽造罪ノ章中ヨリ移シ來リ第二百六十二條及ヒ第二百六十三條ノ規定ヲ新設シタルニアリ

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ二月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

「毀棄」トハ毀損、棄却シ文書トシテノ効用ヲナカラシメタルヲ云フ

本條ハ公務所ニ於テ使用スル官公文書ヲ毀棄シタル犯罪ヲ規定シタルモノニシテ舊刑法カ官文書偽造罪ノ章中ニ配置シアリシヲ法理的ノ編纂法ニアラストシテ茲ニ移シ來リタルモノナリ

第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ舊刑法以來存在スル所ノ私文書毀棄罪ヲ規定シタルモノナリ

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條前段ハ他人ノ建造物軍艦船舶ヲ損壞シタル犯罪ヲ規定ス
建造物、軍艦船舶ニハ多ク人ノ在住スルモノナレハ此等ノ物件ヲ損壞シタルトキハ往々人ヲ死
亡セシメ若クハ負傷セシム此ノ如クニシテ人ヲ死傷セシメタルトキハ前段ノ刑ニテハ輕キニ失
ス是レ後段ニ於テ前段ノ刑ト第二十七章ニ規定スル傷害罪ノ刑ト比較シ重キニ從テ處斷スト規
定セル所以ナリ

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者
ハ二三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十八條ヨリ前條マテニ於テ吾人ノ保有物ヲ守護スヘキ主要ナル財産毀棄罪ヲ規定シタ
リト雖モ此外尙ホ多數ノ財物アリ例ヘハ舊刑法第四百十八條乃至第四百二十三條ニ列記セル種
々ノ物件ノ如シ勿論此種ノ物件モ刑罰ノ制裁ヲ以テ之ヲ保護セサル可ラス是レ本條ニ於テ前三
條ニ規定シタル以外ノ物ト廣ク規定シ概括的ニ私人ノ財物ヲ保護セントスル所以ナリ

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ
タルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

「差押ヲ受ケ」トハ刑事裁判ニ關スル證據物トシテ豫審判事檢事等カ差押ヲ爲シタル場合ト民事

裁判執行ノ爲メ執達吏カ差押ヲ爲シタル場合トヲ包含ス

「物權ヲ負擔シ」トハ質權抵當權ヲ設定セラレタル等ノ場合ナリ自己ノ所有物ト雖モ差押ヲ受ケ
又ハ物權ヲ設定セラレ若シクハ賃貸シ或ハ保險ニ付シアルトキハ既ニ他人カ其物上ニ或種ノ權
利(例ヘハ質權 抵當權等)ヲ有スルヲ以テ之ヲ損壞若クハ傷害セハ前述セル他人ノ權利ヲ傷害スル結果トナ
ルヲ以テ第二百五十八條以下四個條ノ區別ニ從ヒ所有者ヲ處罰スルコトトセリ

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁
錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

信書ノ秘密ヲ侵ス行爲ハ古來ヨリ行ハレ來レル犯行ナルヲ以テ早く特別法(郵便條)ニ於テ之ヲ處
罰シ新刑法ハ第三百三十三條ニ於テ此種ノ犯行ニ對スル完全ナル規定ヲ設ケタリ此種ノ非行ト共
ニ刑罰ヲ制裁トシテ禁止セサル可ラサルモノハ信書ヲ隱匿スル行爲ナリ蓋シ通信ニヨリ諸般ノ
行爲ヲ爲スニ至レル近時ノ社會狀態ニ於テハ通信書ハ諸般ノ方面ニ於テ利害關係ヲ有スルモノ
ナリ從テ宛名人ノ利益ヲ害シ若クハ自己ノ利便ヲ企圖スル爲メ他人ノ信書ヲ隱匿スル者アルニ
至ルヤ必セリ是レ新刑法カ本條ヲ特設シ信書ヲ隱匿スル行爲ヲ處罰スルニ至レル所以ナリ

第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴
ヲ待テ之ヲ論ス

第二百五十九條第二百六十條及ヒ第二百六十三條ヲ申告罪トシタルハ此等各條ニ規定シタル物
件ハ人ニ依リ之ヲ尊重スル念慮ヲ異ニス從テ或人ニハ殆ント之ヲ財産視セス其毀棄損壞ヲ受ク
ルモ些少ノ痛痒ヲ感セサルモノナリ此ノ如キ場合ニ國家カ犯罪必罰ノ原則ヲ勵行シ被害者ノ意
思如何ニ拘ハラヌ其行爲ヲ犯罪トシテ處罰スルハ無用ノ刑ヲ科スルノ嫌ナキ能ハス是レ本條カ
前記三個ノ犯罪ニ付テハ被害者ノ意向ヲ聞キ被害者カ損害ヲ受ケタリト認ムル場合ニ犯人ヲ處
罰セン爲メ告訴ヲ俟テ處罰ノ手續ヲ開始スルコトトナシタルナリ

刑法註解

畢

明治四十年四月二十三日印刷
明治四十年四月二十七日發行

改正刑法註解奧付

定價 並製 八十五錢
上製 壹圓

著作者兼
發行者

東京市牛込區築土八幡町五番地
草刈融

印刷者

東京市神田區美土代町二丁目一番地
白土幸力

印刷所

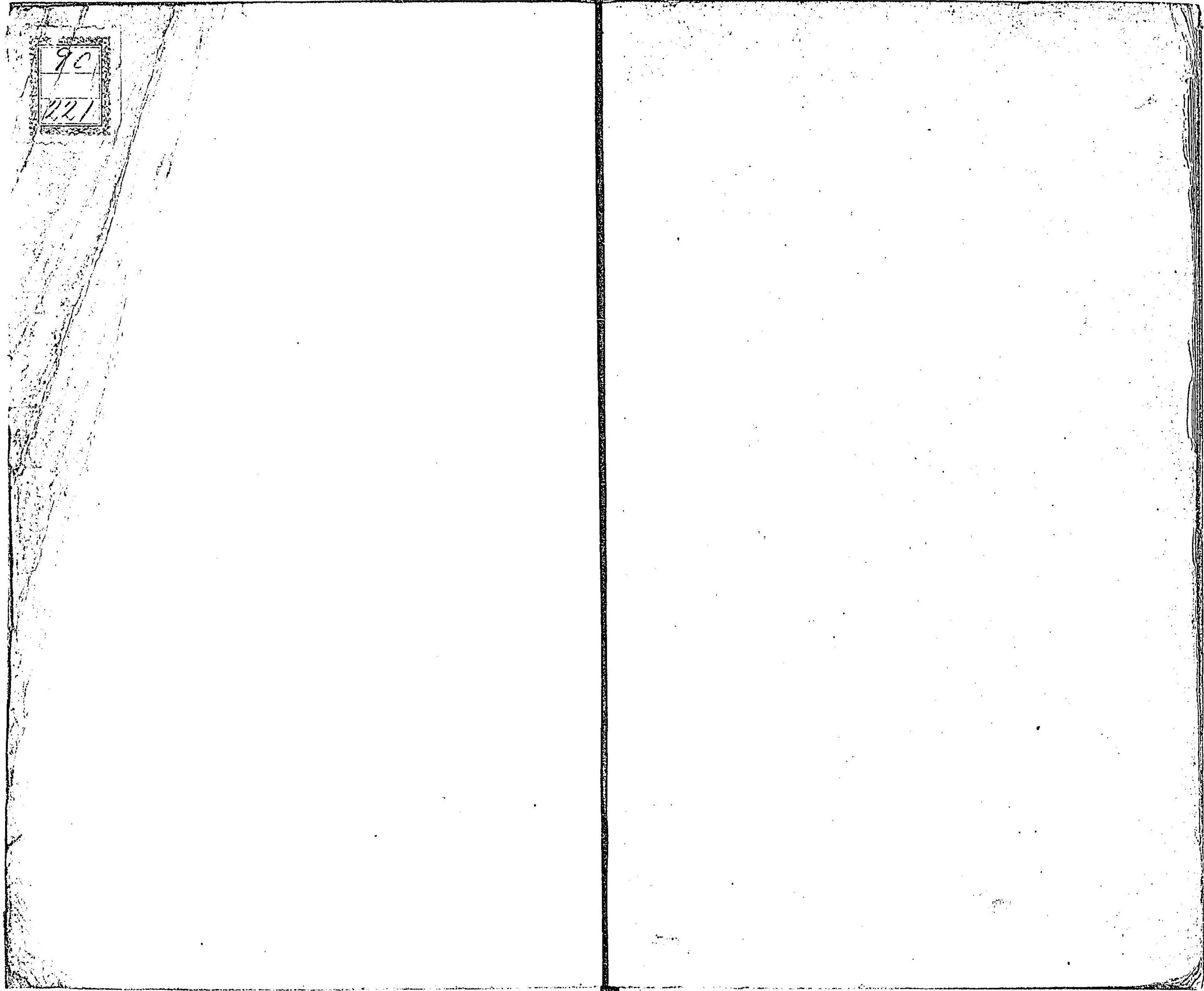
東京市神田區美土代町二丁目一番地
三光堂



發行所

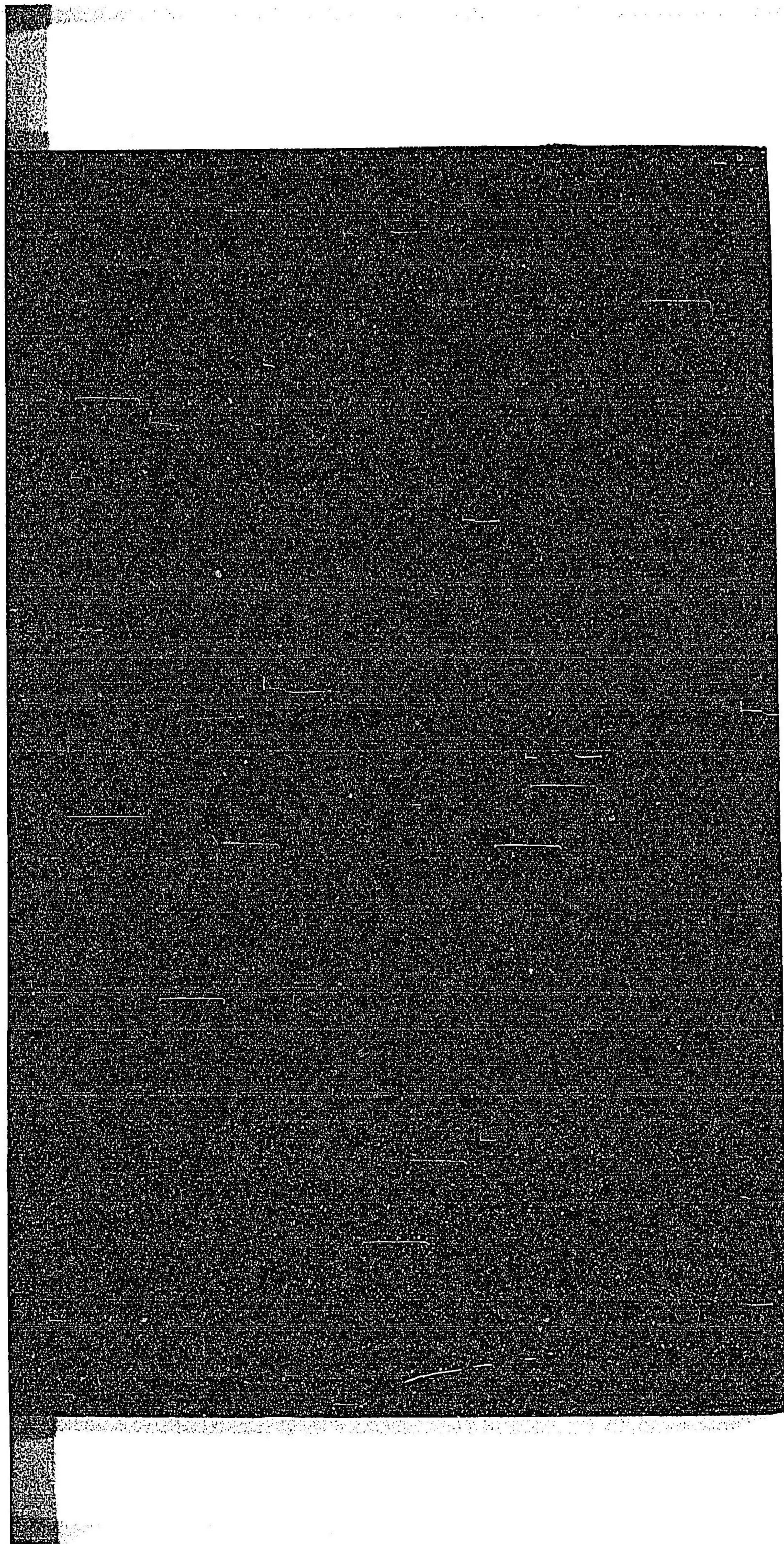
東京市神田區
猿樂町二番地

松華堂



90
221

90
221



90
221

035532-000-3

90-221

改正刑法註解

草苺 融 / 著

M40

BBP-0074

